

吾妻重二 編

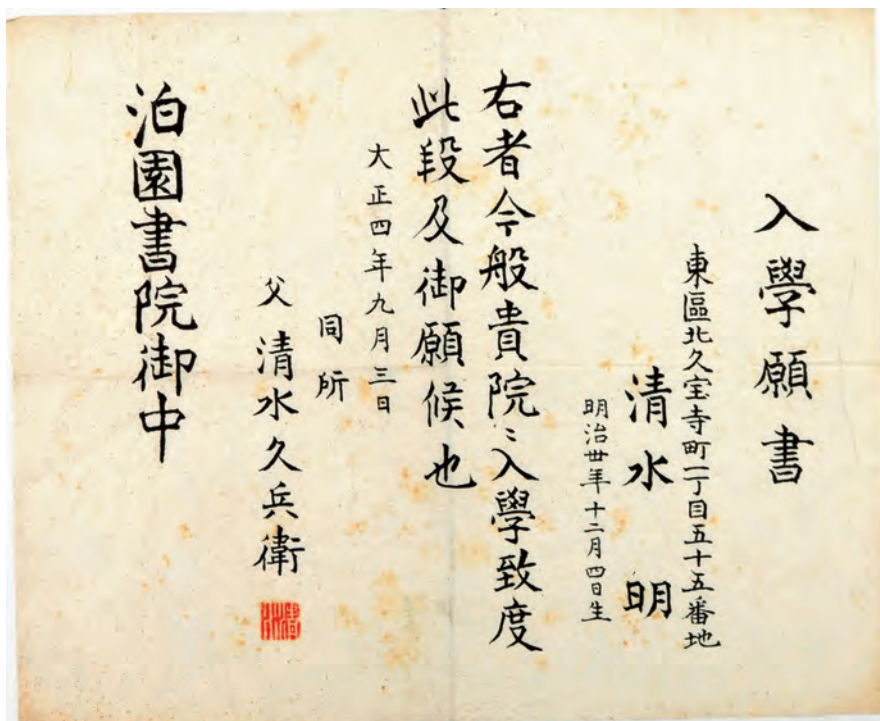
関西大学泊園文庫

自筆稿本目録稿（丙部）

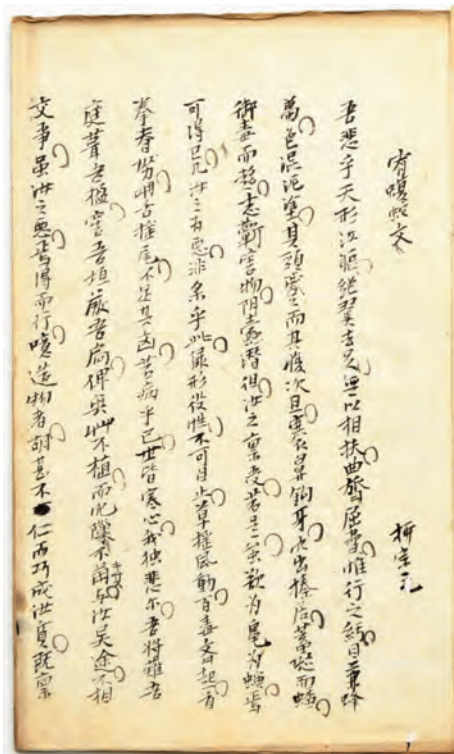
関西大学アジア文化研究センター

織戶為藏

『勤惰月旦評』明治17年1月（藤澤南岳筆）
〔LH2／丙101-3〕



泊園書院の入学願書
[LH2/丙128]



富永仲基『稿文』
[LH2/丙84-4]



中井竹山『漂翁先生諸説』
[LH2/丙21]

はしがき

本書は昨年刊行した『関西大学泊園文庫 自筆稿本目録稿（甲部）』（関西大学アジア文化研究センター）に続くもので、泊園文庫自筆稿本の丙部に分類される文献の目録である。

泊園文庫は江戸時代後期の文政八年（一八二五）、四国讃岐の儒者藤澤東咳^{とうがい}が大阪に開いた漢学塾「泊園書院」の蔵書であり、書院が東咳の子の南岳^{なんがく}、南岳の子の黄鵠^{こうこく}・黄坡^{こうは}、黄坡義弟の石濱純太郎によって昭和の終戦を迎えるまで長く維持されたことはよく知られるところであろう。そして昭和二十六年（一九五一）、その蔵書が黄坡の子で小説家として活躍していた藤澤桓夫^{たけお}、および当時関西大学文学部教授であった石濱純太郎により本学に泊園文庫として寄贈された。この泊園文庫の一般書籍すなわち刊本については、すでに昭和三十三年（一九五八）、『関西大学泊園文庫蔵書目録』が関西大学出版部より刊行されているが、自筆稿本についてはこれまで整理がなされず、目録も作られていなかったのである。

さて、ここにいう自筆稿本は、三つの部分に分かれる。

- ・ 甲部 東咳、南岳、黄鵠、黄坡、石濱純太郎の手稿本
- ・ 丙部 他の学者文人の手稿本、門人帳など
- ・ その他 書簡、他の書籍、文書資料など

すなわち、手稿本を中心とする資料群であり、このうち丙部の所蔵資料は全百二十九点で、合計二百九十冊あまりにのぼる。

本目録作成にあたってはおおむね一般的な目録の方法に従ったが、丙部の特性にかんがみて次のようにした。

一、ほとんどすべてが写本であるため「写本」という表記はしなかった。写本でない場合のみ、洋装活版などと記した。

- 二、大部分が漢文による著述であることから、特に「漢文」という表記はせず、和文の場合にのみ「和文」と記した。
したがって、文体に関して何も表記がなければ漢文で書かれているということである。
- 三、備考欄に当該資料の内容や書き入れ、資料内に残される挟み物などについて記した。
- 四、E以下は関西大学総合図書館の請求記号（整理番号）である。

二〇一三年三月二十日

吾妻重二

* 本稿は文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」によって関西大学東西学術研究所内に設立された「アジア文化研究センター」（平成二十三年度～二十七年）における研究成果の一部である。

関西大学泊園文庫 自筆稿本目録稿 (丙部)

文章廻瀾 一冊一帙 五井蘭洲編

LH2/丙1

〔葉数〕二十四葉

〔内題・外題〕内題「文章廻瀾」書き付け外題「文章廻瀾」

〔備考〕大和綴じ 第二十二葉冒頭に「辨滄浪詩話 附録」とあり 欄外書き入
れ多し 題簽「文章廻瀾」の帙に収む

典謨接 一冊 中井履軒著

LH2/丙2

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題「典謨接」書き付け外題「典謨接 完」

〔備考〕大和綴じ 『尚書』堯典・皋陶謨の解説 『尚書』本文を朱筆で記す 欄
外書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

東征稿・西上記 一冊 中井竹山著

LH2/丙3

〔葉数〕四十三葉

〔内題・外題〕内題「東征稿」「西上記」書き題簽「東征稿 西上記」

〔蔵書印〕題簽の下部に「求仁堂」印 卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕精写本 四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「甲 書目 東征
稿 西上記 冊数 一」とあり 安永二年南宮岳序、同年洪井孝徳跋 朱点あ
り 欄眉に書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

西岡集 一冊 中井竹山著

LH2/丙4

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題「西岡集」書き題簽「西岡集 全」

〔備考〕精写本 大和綴じ 朱点 朱筆・墨筆による欄眉書き入れあり 題簽「懷
徳堂叢書 一」の帙に収む

社倉私議 一冊 中井竹山撰

LH2/丙5

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題「社倉私議」書き付け外題「社倉私議 全」

〔備考〕和文 大和綴じ 第二十二葉より「附録」文末に「寛政甲寅仲冬 竹山
居士識」とあり 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

孟子逢原抄録 一冊 中井竹山撰

LH2/丙6

〔葉数〕三十七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「孟子逢原抄録 缺後半部」

〔蔵書印〕裏表紙の左下に「泊園文庫」印

〔備考〕大和綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「戊 書目 孟子逢原抄録
冊数 一」とあり 朱筆による欄外書き入れ少しあり 大正二年の大城戸宗
重識語あり、「黃鵠兄に贈る」と記す 題簽「懷徳堂叢書 一」の帙に収む

中庸 一冊 中井慇庵・五井蘭洲・中井竹山等注

LH2/丙7

〔葉数〕四十八葉

〔内題・外題〕書き付け外題「中庸 全」

〔蔵書印〕表紙右下に「求仁堂」印

〔備考〕精写本 大和綴じ 旧注および蘭洲・慇庵・竹山らの説を併せ記す 欄
外書き入れあり 裏表紙右下に「求仁堂藏本」と墨書す 題簽「懷徳堂叢

書 一」の帙に収む

平洲紀先生感懷詩 一冊 細井平洲撰 中井竹山批評

LH2/丙8

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題「平洲紀先生感懷詩」 書き付け外題「平洲先生感懷詩」

〔備考〕大和綴じ 表紙に「竹山居士批評」「松篁軒藏」と墨書す 「細井平洲先生舊里碑」を双行注で附録す 文政戊子の神禁世猷識語、己酉年の竹山識語あり 朱筆・墨筆による欄外書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 二」の

帙に収む

中庸 一冊 中井履軒校

LH2/丙9

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題「中庸」 外題なし

〔備考〕精写本 大和綴じ 内題の下に「水哉館定本」とあり 『中庸』本文を二十七章に分かつ句点 欄外書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

大學錯問 一冊 中井履軒撰

LH2/丙10

〔葉数〕三葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「水哉館 大學錯問」

〔備考〕精写本 大和綴じ 朱筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

世説 一冊 中井履軒編

LH2/丙11

〔葉数〕九十三葉

〔内題・外題〕内題「世説」 書き付け外題「水哉館世説頭書 全」

〔備考〕大和綴じ 朱筆・墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の

帙に収む

莊子雕題 一冊 中井履軒撰

LH2/丙12

〔葉数〕五十八葉

〔内題・外題〕内題「莊子雕題」

〔藏書印〕裏表紙左下に「泊園文庫」印

〔備考〕大和綴じ 書き付け外題に「莊子雕題 内篇」とあるも、「莊子雕題 外篇」を附す 朱筆・墨筆による書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

利政雜議 一冊 中井履軒撰

LH2/丙13

〔葉数〕十葉

〔内題・外題〕内題「利政雜議」 書き付け外題「利政雜議」

〔藏書印〕書き付け外題の下に「求仁堂」印 卷末に「泊園文庫」印
〔備考〕大和綴じ 「擬諭」の文を附す 墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 二」の帙に収む

傳疑小史 一冊一帙 中井履軒撰

LH2/丙14

〔葉数〕十七葉

〔内題・外題〕内題「傳疑小史」 書き付け外題「傳疑小史」

〔備考〕大和綴じ 精写本 卷末に「文化紀元九日 幽人識」「文政丁亥孟春 北岳子校定」とあり 句点 題簽「傳疑小史」の帙に収む

履軒古韻 一冊 中井履軒著

LH2/丙15

〔葉数〕四十六葉

〔内題・外題〕内題「履軒古韻」 書き付け外題「幽人先生古韻 完」

〔藏書印〕卷頭に「泊園書院文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序あり 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「辛 書目 幽人先生古韻 冊数一」とあり 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

履軒古韻 一冊 中井履軒著

LH2／丙16

〔葉数〕三十二葉
〔内題・外題〕内題「履軒古韻」書き付け外題「履軒古韻」
〔備考〕四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序あり 朱筆・墨筆による書き入れ 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

履軒古韻 一冊 中井履軒著

LH2／丙17

〔葉数〕三十二葉
〔内題・外題〕内題「履軒古韻」書き付け外題「履軒古韻 全」
〔蔵書印〕表紙裏面の左下に「荻埜」印 巻頭に「泊園蔵書之記」印
〔備考〕精写本 四つ目綴じ 明和庚寅孟春の履軒幽人序あり 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「辛 第三六號 書目 履軒古韻 函号五 冊数一」とあり 表紙裏面の右下隅に南岳の字で「叢書之一」とあり 朱筆・墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

九歎 一冊 中井履軒撰

LH2／丙18

〔葉数〕三葉
〔内題・外題〕内題「九歎」書き付け外題「履軒先生九歎 全」
〔備考〕大和綴じ 題簽「懷徳堂叢書 三」の帙に収む

北窓雜記 一冊 著者未詳

LH2／丙19

〔葉数〕六十四葉（墨付四十八葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「備忘 北窓雜記」

〔備考〕四つ目綴じ 卷首下部に「損哉樓主」と墨書す 和文で書かれた部分あり 「懷徳堂」の用箋を用う 朱墨による書き入れ多し 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に収む

升堂記聞 孟子 一冊 並河天民講義 並河機息記聞

LH2／丙20

〔葉数〕三十二葉
〔内題・外題〕内題「孟子」書き付け外題「升堂記聞 孟子」
〔備考〕大和綴じ 書き付け外題の下に「天民先生講義」「機息先生記聞」とあり 「懷徳堂」の用箋を用う 朱筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に収む

渌翁先生諸説 一冊 中井竹山撰

LH2／丙21

〔葉数〕二十三葉
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「渌翁先生諸説」
〔蔵書印〕表紙左に「求仁堂」印
〔備考〕和文 大和綴じ 「答小西純達書」「答丸川千秋問目」「答股野嘉善」「答谷生論主一無適」「答松藩谷某」を含む 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に収む

履軒先生説 一冊 中井履軒撰

LH2／丙22

〔葉数〕六十四葉（墨付六十二葉）
〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「履軒先生説」
〔蔵書印〕表紙外題下に「求仁堂」印 第三十九葉表の右下に「求仁堂」印
〔備考〕大和綴じ 巻末の「答官良佐」のみ和文 第三十葉から第四十一葉まで「艸雲廬」の用箋を用う 第四十四葉から第四十八葉まで「揚善社」の用箋を用う 朱筆・墨筆による書き入れあり 題簽「懷徳堂叢書 四」の帙に収む

懷徳堂諸先生逸詩 一冊一帙 三宅石庵・五井蘭洲・中井竹山等撰

LH2/丙23

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題「懷徳堂諸先生逸詩」書き付け外題「懷恵詩 全」

〔備考〕大和綴じ 一部に和歌あり 朱墨による書き入れ 墨筆による欄外書き入れあり 題簽「懷徳堂諸先生逸詩」の帙に収む

弊帚季編 一冊一帙 中井履軒撰

LH2/丙24

〔葉数〕二十五葉

〔内題・外題〕内題「弊帚季編」書き題簽「弊帚季編 上下 全」

〔備考〕四つ目綴じ 文化丁卯夏序 朱点 朱筆による書き入れ多し 題簽「弊帚季編」の帙に収む

履軒古風 一冊一帙 中井履軒撰

LH2/丙25

〔葉数〕三十九葉

〔内題・外題〕内題「履軒古風」外題なし

〔備考〕精写本 四つ目綴じ 三巻に分かつ 墨筆による欄外書き入れあり 第二十八葉に「先生手書与寫本有同異」として附箋を貼りつける 題簽「履軒古風」の帙に収む

尚書 一冊一帙 中井履軒等注

LH2/丙26

〔葉数〕三十九葉

〔内題・外題〕内題「書」書き付け外題「尚書 帆新註」

〔蔵書印〕第一葉表右下に「雨後亭」印

〔備考〕四つ目綴じ 卷一のみ 堯典より皋陶謨まで 旧註・蔡沈註・履軒註・万里註を併記す 朱点 朱筆・墨筆による訂正あり 題簽「尚書」の帙に収む

慶長元和両度大阪役圖 一枚

LH2/丙27

〔内題・外題〕内題なし 紙袋の書き付け外題「慶長元和両度大阪役圖」

〔備考〕八〇・六×一二〇センチの筆彩写図 書き付け外題の右に「懷徳書院教授並河寒泉遺書」とあり「伏見稻荷大社」の紙袋に折り畳んで収む

周易 坤屯 一冊 満生大麓述

LH2/丙28

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大麓先生代紳録 周易 坤屯」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕大和綴じ 和文 欄外書き入れあり 題簽「満生大麓先生代紳録 周易」の帙に収む

周易 自下経至序卦 一冊 満生大麓述

LH2/丙29

〔葉数〕六十二葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「周易 自下経至序卦」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕大和綴じ 和文 墨筆・朱筆による書き入れあり 巻末に「天明元年仲秋上旬」とあり 題簽「満生大麓先生代紳録 周易」の帙に収む

周易 上繫辭 下繫辭 説卦 序卦 雜卦 一冊 満生大麓述

LH2/丙30

〔葉数〕五十九葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「周易 上繫辭 下繫辭 説卦 序卦 雜卦」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕大和綴じ 和文 欄外書き入れあり 巻末識語に「于時天明二年壬寅之歲十二月中旬摹之於浪華僑居右者 大麓先生代紳録也云爾」とあり 題簽「周易 満生大麓先生代紳録」の帙に収む

論語代紳録 一冊一帙 齋宮静齋述

LH2/丙31

〔葉数〕九十八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「論語代紳録」

〔蔵書印〕巻頭・第四十七葉裏・第四十八葉表に「佐翼」印

〔備考〕大和綴じ 和文 學而第一より郷黨第十まで 墨筆による欄外書き入れあり 表紙書き付け外題の右に「豫州松山田那邊舜仲修思室者舜仲之所宅而先生所賜之稱也 此者静齋先生所講而田那邊舜仲之代紳録也」「于時天明三年癸卯之春三月摸之於修思室也」と書き付け 第二十七葉裏と第二十八葉表の間に紙片の挟みものあり、「右ハ静齋先生豫州松山伴奩亭ニライテ講ジ終ル焉 蒙園藏」と墨書す 題簽「論語代紳録 齋宮静齋」の帙に収む

周易 上經 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙32

〔葉数〕三十五葉

〔内題・外題〕内題「周易」書き題簽「周易 上經」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印 巻尾に「泊園文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 乾卦より離卦まで 青筆による句点 墨筆・朱筆による書き入れあり 題簽「周易 矢口録」の帙に収む

周易 上繫辭傳 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙33

〔葉数〕四十八葉

〔内題・外題〕内題「周易上繫辭傳」書き付け外題「矢口録 周易上繫辭」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印 巻尾に「泊園文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 題簽「周易 矢口録 二」の帙に収む

周易 繫辭傳 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙34

〔葉数〕四十八葉

〔内題・外題〕内題「周易繫辭傳」書き付け外題「矢口録 周易上繫辭下繫辭」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印 巻尾に「泊園文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 繫辭上伝の一部と繫辭下伝の前半部を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 題簽「周易 矢口録 二」の帙に収む

周易 下繫辭 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙35

〔葉数〕四十八葉(墨付三十九葉)

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「矢口録 周易下繫辭」

〔蔵書印〕巻頭・第三十二葉裏に「佐翼」印 巻尾に「泊園文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 丙35に続いて繫辭下伝を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れ 第三十二葉裏と第三十三葉表の間に挟みもの一冊(三葉)あり、表紙に「易繫辭」と書き付け、巻頭・巻尾に「佐翼」印、裏表紙に「泊園文庫」印 第三十四葉以降は「自銘于座右」と題する格言および覚書 題簽「周易 矢口録 二」の帙に収む

尚書 典謨前解 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙36

〔葉数〕三十葉

〔内題・外題〕内題「尚書」書き題簽「静齋先生 書 典謨前解 全」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 堯典よび舜典を釈す 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「乙第五三號 書目 静齋先生 典謨前解書 函號五 冊数一」とあり 青筆による句点 墨筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

尚書 典謨後解 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙37

〔葉数〕十八葉

〔内題・外題〕内題「矢口録」書き題簽「静齋先生 矢口録 書 典謨後解」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 堯典より皋陶謨までを釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

矢口録 禹貢前解 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕二十七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「矢口録 禹貢 前解」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「乙 第六四號 書目矢口録 函號三 冊数一」とあり 青筆による句点 墨筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「安永八己亥之歲仲冬中旬 蒙園藏」とあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

LH2/丙38

矢口録 禹貢後解 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕四十五葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「書 禹貢 後解」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 扉に「禹貢解 坤」とあり 青筆・朱筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「安永八己亥之季冬 蒙園藏」とあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

LH2/丙39

矢口録 甘誓 五子之歌 胤征 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕二十四葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「矢口録 甘誓 五子之歌 胤征」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「蒙園藏」とあり 裏表紙右下に「及川氏」と墨書す 題簽「尚

LH2/丙40

書 矢口録」の帙に収む

矢口録 太甲 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕五十九葉（墨付五十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「書 太甲 上中下 全」

〔蔵書印〕巻頭・第十三葉裏・第十五葉表・第二十八葉裏・第二十九葉表に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書 矢口録」の帙に収む

LH2/丙41

矢口録 微子 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕二十六葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「書 微子」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 卷末識語に「安永八己亥歲季春中旬 蒙園藏」とあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

LH2/丙42

矢口録 洪範序解 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕十六葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「書 洪範序解」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

LH2/丙43

詩詁 小雅鹿鳴之什 一冊 齋宮静齋述

〔葉数〕二十三葉

LH2/丙44

〔内題・外題〕内題「詩詠」書き題簽「静齋先生 詩詠 小雅鹿鳴之什」

LH2/丙48

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 朱筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題

簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

詩詠 大雅 文王之什 生民之什 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙45

〔葉数〕四十三葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「詩 大雅 文王之什 生民之什」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題

簽「尚書矢口録 詩経矢口録」の帙に収む

詩釋義 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙46

〔葉数〕二十葉

〔内題・外題〕内題「詩釋義」書き題簽「詩釋義 全」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 巻

末識語に「安永七年季冬」とあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の

帙に収む

矢口録 天命 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙47

〔葉数〕二十四葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「矢口録 天命 称呼之辨之解」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 巻

末識語に「安永九庚子之歳秋八月」とあり 題簽「詩釋義・論語解・神道

解外」の帙に収む

五紀解 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙48

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「五紀解」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ『尚書』洪範の「五紀」を釈す 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

論語二字解 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙49

〔葉数〕十六葉

〔内題・外題〕内題「論語」書き題簽「論語二字解」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印 巻尾に「泊園文庫」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 巻

末識語に「安永八己亥歳季春上旬 蒙園藏」とあり 題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

静齋先生神道解 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙50

〔葉数〕七十一葉

〔内題・外題〕内題「神道解」書き題簽「静齋先生神道解 全」

〔藏書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「己 第六二號 書目 静

齋先生神道解 函號九 冊数一」とあり 青筆による句点 墨筆・朱筆に

よる欄外書き入れあり 巻末識語に「安永七戊戌之冬」とあり 題簽「詩

釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

神道解 弟子問 一冊 齋宮静齋述

LH2/丙51

〔葉数〕四十九葉

〔内題・外題〕内題「神道解」書き題簽「神道解 弟子問 全」

〔蔵書印〕巻頭・巻尾に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 青筆による句点 墨筆・朱筆による欄外書き入れあり 題
簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

LH2/丙52

神道極秘玉籤集 八巻一冊 岡田正利撰

LH2/丙52

〔葉数〕七十九葉

〔内題・外題〕内題「神道極秘玉籤集」 書き題簽「神道玉籤集 全」

〔蔵書印〕巻頭その他に「佐翼」印

〔備考〕四つ目綴じ 内題の下に「玉木正英門人 岡田正利撰」とあり 「天人唯

一之傳」「四化之傳」などの傳に分けて論述す 和文 墨筆・朱筆による欄

外書き入れあり 跋文「于時天明八年歲次戊申七月廿日馳寫諸讚州岡田邑

焉 右者坂上道啓之所藏也道啓者讚州高松之老牛窪勘兵衛之與力而俗称貞

之丞岡田村氏 蒙園藏書」「于時天明六年丙午歲冬閏十月上旬 騰寫之於

讚州岡田邑云 蒙園藏」題簽「詩釋義・論語解・神道解外」の帙に収む

御勘定方御申送銅座取計書 扣 一冊一帙 岡本撫山手写

LH2/丙53

〔葉数〕四十六葉（墨付四十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 扉書き付け「御勘定方御申送 銅座取計書 扣」

〔備考〕大和綴じ 和文 大阪銅座文書の一 岡本撫山関係文書 扉書き付け左

下に「澱水」とあり 題簽「御勘定方御申送 銅座取計書 扣」の帙に収

む 岡本撫山は黄鵠の妻志んの父

文政元寅五月諸用向之控 一冊一帙 岡本撫山手写カ

LH2/丙54

〔葉数〕二十三葉（墨付十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「文政元寅五月 諸用向之控」

〔備考〕大和綴じ 和文 大阪銅座文書の一 岡本撫山関係文書 附箋・挟み物

多し 題簽「文政元寅五月 諸用向之控」の帙に収む

銅座持屋鋪樋之上町貸長家之内御建替御普請一件書拔

一冊一帙 岡本撫山手写カ

LH2/丙55

〔葉数〕百七葉（墨付百五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「文化十酉歲 銅座持屋鋪樋之上町貸長

家之内御建替御普請一件書拔」

〔備考〕大和綴じ 和文 扉右下に「銅座役人」と墨書す 大阪銅座文書の一 岡

本撫山関係文書 一部朱筆あり 附箋・挟み物あり 題簽「銅座持屋鋪樋

之上町貸長家之内御建替御普請一件書拔 文化十年」の帙に収む

寛政度江戸古銅吹所創立 一冊一帙 岡本撫山手写カ

LH2/丙56

〔葉数〕二百四十四葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「寛政度 江戸古銅吹所創立」

〔備考〕大和綴じ 和文 一部朱筆あり 巻末識語に「安政六己未年ヨリ 諸書

付留」とあり 大阪銅座文書の一 岡本撫山関係文書 題簽「江戸古銅吹

所創立一件書」の帙に収む

叢書 六集 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山手写カ

LH2/丙57

〔葉数〕三百六十六葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「叢書十六集 元治甲子」

〔備考〕大和綴じ 和文 朱筆による書き入れあり 奥書「十六集 地 元治甲

子」元治元年（一八六四）における政局関連の諸文書を抄写する 第二三

四葉裏の「元治甲子 京都大火圖 二」と表書きする袋に「京都大火之略

圖」「京都大火圖」の二枚（刷り物）を入れる 長州征討の図、天狗党の乱

の図を挟む 巻末に「元治元年 御進發御軍立」を綴じ込む 岡本撫山関

係文書 題簽「叢書十六集 元治甲子」の帙に収む

叢書 三集 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山手寫カ LH2/丙58

〔葉数〕百六十二葉（墨付百五十九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「叢書 三集 天保辛丑」

〔備考〕大和綴じ 和文 天保十二年（一八四一）の世事風説諸文書を合綴する
岡本撫山関係文書 題簽「叢書 三集 天保辛丑」の帙に収む

備忘雜錄 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆 LH2/丙59

〔葉数〕十六葉（墨付九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「明治廿六年十二月稔五日 備忘雜錄」

〔版式・書式〕行数字数不定 無辺無界

〔備考〕大和綴じ 覚書の他、貴族院議事速記録、大阪朝日新聞の切り抜き、葉書、年金恩給受領心得などを貼り付ける 岡本撫山関係文書 題簽『備忘雜錄』の帙に収む

雜記 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆 LH2/丙60

〔葉数〕八十三葉（墨付十六葉）

〔内題・外題〕書き付け外題「雜記」 扉に「明治三十一年一月廿三日 戊戌正月

二日ヨリ 雜記」とあり

〔備考〕四つ目綴じ 漢文および和文 朱筆・墨筆による訂正 欄外書き入れあり
岡本撫山関係文書 題簽「雜記 明治三十一年」の帙に収む

夜航詩話鈔 夜航餘話鈔 一冊一帙 津阪東陽著 岡本撫山筆 LH2/丙61

〔葉数〕八十八葉

〔内題・外題〕内題「夜航詩話鈔」「夜航餘話鈔」 書き付け外題「夜航詩話 夜航餘話鈔 完」

〔備考〕精写本 四つ目綴じ 冒頭に目次を載せる 「夜航詩話鈔」は漢文、「夜航餘話鈔」は和文 「撫山書房」の青刷野紙を用う 句点 墨筆・朱筆によ

る書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「夜航詩話 夜航餘話」の帙に収む

護國女太平記 （付）淀屋三郎右衛門闕所道具・淀屋三郎右衛門闕所之事

一冊一帙 岡本撫山筆 LH2/丙62

〔葉数〕十九葉

〔内題・外題〕内題「護國女太平記」 書き付け外題「護國女太平記抄」

〔蔵書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕大和綴じ 内題の下に「享保二丁酉八月上旬東講散人著」とあり 朱筆・墨筆による欄外書き入れ 岡本撫山関係文書 題簽「淀屋三郎右衛門闕所一件書」の帙に収む

文政十二年丑五月 切支丹邪法者處刑一件 一冊一帙 岡本撫山筆

LH2/丙63

〔葉数〕十一葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大坂并平安城表ニ而通□切支丹邪法行

候者在之則東御奉行様は高井山城守様右御組之内吟味役大塩平八郎様御懸ニ而則文政十二丑年五月今宮郷鳶田ニおゐて桀に相成御捨札之写」

〔備考〕大和綴じ 和文 朱筆による書き入れあり 卷末識語に朱筆で「原書水野弥兵衛所有 明治廿六年三月寫」と記す 岡本撫山関係文書 題簽「文政十二年丑五月 切支丹邪法者處刑一件」の帙に収む

瑠璃本記拔萃 一冊 岡本撫山筆 LH2/丙64

〔葉数〕二十六葉

〔内題・外題〕内題「瑠璃本記 拔萃」 書き付け外題「瑠璃本記 拔萃 全」

〔備考〕大和綴じ 和文 卷頭欄外に「瑠璃本記 是書ハ諸書ヲ輯集シテ編纂セシモノト見ユ 記者文筆無ク俗言謬語多ク加フルニ傳寫ノ誤脱甚シ 今其

中ニ就キ濫觴沿革ニ属スルモノヲ拔萃ス 明治二十四年八月稔七日」と墨書す 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「浄瑠璃大系圖・瑠璃本記」の帙に収む

浄瑠璃大系圖拔萃 一冊 竹本筆太夫考 近松狂言堂訂 岡本撫山筆

LH2/丙65

〔葉数〕 十四葉

〔内題・外題〕 内題「浄瑠璃大系圖」書き付け外題「浄瑠璃大系圖 拔萃 全」

〔備考〕 大和綴じ 和文 第七葉裏に「天保十六年壬寅十月大坂書肆上梓 明治二十四年辛卯九月初拔萃」とあり 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「浄瑠璃大系圖・瑠璃本記」の帙に収む

撫山抄録 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆

LH2/丙66

〔葉数〕 九十二葉

〔内題・外題〕 内題・外題ともなし

〔備考〕 大和綴じ 和文および漢文 「諸国風俗問状」「玉井氏聞書」「松平定信の用心」「平泉の金色堂」「角鹿の名義」「南浦文集一 銃炮記」「國郡沿革考 總論」「淡路の傀儡師」「賀茂貞淵年譜」「本居宣長年譜」「足利學校 閲書 條目」「征韓起原」「大和國郡沿革」「武州先聖殿記 羅山文集」「聖堂學規」「伊豫高嶺」「芝居の履歴」「瀬戸窯」「常滑陶器」「中臣壽詞 康治元年十一月」「吉田了以碑銘」「攝豊島郡芝村萱野三平墓碑銘」「法印探幽齋狩野守信碑誌并誌」「紀池田喜内事 藤澤東暎」「神吉雲屋翁傳 藤澤東暎」「奥羽海運記 白石 新井君美」などの資料を抄録す 第八十七葉裏と第八十八葉の表の間に明治二十七年八月三日付「慈善新報」の記事「故谷文晃翁」を挟む 朱筆・墨筆による書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「撫山抄録」の帙に収む

日本紀標註假字之例 一冊一帙 敷田年治著 岡本撫山筆

LH2/丙67

〔葉数〕 二十七葉

〔内題・外題〕 内題「假字之例 敷田年治日本紀標註」書き付け外題「日本紀假字之例」

〔備考〕 大和綴じ 和文 「撥音三類の辯 農學士大島正健」を附す 朱筆・墨筆による書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「日本紀標註假字之例」の帙に収む

詩韻 五冊一帙 岡本撫山筆

LH2/丙68-1~68-5

〔葉数〕 一冊目百二十七葉 二冊目百三十八葉（墨付百三十六葉） 三冊目百六葉（墨付百五葉） 四冊目百十四葉（墨付百十一葉） 五冊目七十四葉（墨付七十二葉）

〔内題・外題〕 内題「詩韻」書き付け外題「詩韻 甲（乙）（丙）（丁）（戊）」〔備考〕 精写本 四つ目綴じ 「撫山書房」の青刷野紙を用う 朱筆による書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「詩韻 上平 下平 上聲 去聲 入聲」の帙に収む

詩韻 一冊一帙 岡本撫山筆

LH2/丙69

〔葉数〕 百一葉

〔内題・外題〕 内題「詩韻」書き付け外題「詩韻」

〔備考〕 大和綴じ 「撫山書房」の青刷野紙を用う 朱筆による書き入れ多し 岡本撫山関係文書 題簽「詩韻 上平之部」の帙に収む

雜記 一冊一帙 岡本撫山編 岡本撫山筆

LH2/丙70

〔葉数〕 三十三葉（墨付三十二葉）

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「雜記」〔備考〕 大和綴じ 和文および漢文 「鶴龜松竹梅の説」「掛字掛物ノ由来并ニ茶

道ノ起原」観雷亭記 祇南海」謁懷杯行 秋山玉山」題高田嘉兵衛真
藤澤東峽」島津氏復姓の文書」島津氏歴代の歌」黄門光國教訓」半日
閑話」官号改易 續日本紀」高陽閣飲序」題酒戰圖」などを抄録す 朱
筆・墨筆による欄外書き入れあり 岡本撫山関係文書 題簽「雜記 岡本
撫山」の帙に収む

山上行記

一冊一帙 岡本撫山録 岡本撫山筆

LH2/丙71

〔葉数〕六十九葉（墨付六十五葉）

〔内題・外題〕内題・外題ともなし

〔蔵書印〕卷末に「泊園文庫」印

〔備考〕大和綴じ 横本 和文 明治六年十月八日から十月二十日、金剛山、五
條、吉野の山々に登った時の日記 第六葉以降は雜記帳で「藤本常次郎墓
碑銘」「日下英男君墓碑銘」「木村中尉墓碑銘」の草稿を含む 岡本撫山関
係文書 題簽「山上行記 岡本撫山」の帙に収む

雲煙藏方寸書画帖

一帖一帙

LH2/丙72

〔葉数〕十四葉（墨付九葉）

〔内題・外題〕内題「雲煙藏方寸」 外題なし

〔備考〕帖装 書画帖 岡本撫山関係文書 題簽「雲煙藏方寸帖」の帙に収む

作臥游計書画帖

一帖一帙

LH2/丙73

〔葉数〕五十六葉（墨付五十葉）

〔内題・外題〕内題「作臥游計」 外題なし

〔備考〕帖装 書画帖 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「書日書畫帖」とあり
岡本撫山関係文書 題簽「作臥遊計帖」の帙に収む

浪華年代記

四冊一帙 岡本撫山著 岡本撫山筆

LH2/丙74-1~74-4

〔葉数〕一冊目五十一葉 二冊目六十四葉 三冊目五十一葉 四冊目七十八葉

〔内題・外題〕内題なし 外題「自神武天皇紀元前戊午年 至後水尾天皇慶長十
九年 二千二百七十七年間 第一卷」「自後水尾天皇元和元年 至中御門
天皇正徳五年 百一年間 第二卷」「自中御門天皇享保元年 至光格天皇
寛政五年 七十八年間 第三卷」「自寛政七年 至慶応三年 七十三年間
第四卷」

〔備考〕大和綴じ 和文 墨筆による書き入れ多し 墨筆・朱筆による欄外書き
入れ多し 岡本撫山関係文書 題簽「浪華年代記」の帙に収む

浪華年代記

三冊一帙 岡本撫山著 岡本撫山筆

LH2/丙75-1~75-3

〔葉数〕一冊目五十八葉 二冊目五十三葉 三冊目六十四葉

〔内題・外題〕内題「浪華年代記」 外題「自神武天皇戊午年 至後光明天皇慶安
四年 第一卷」「自後光明天皇承應元年 至後桃園天皇明和八年 第二卷」
「自後桃園天皇安永二年 至今上皇帝慶應三年 第三卷」

〔備考〕大和綴じ 丙74の稿本 和文 朱筆・墨筆による書き入れ多し 附箋多
し 岡本撫山関係文書 題簽「浪華年代記」の帙に収む

浪華人物誌

二冊一帙 岡本撫山著 岡本撫山筆

LH2/丙76-1~76-2

〔葉数〕一冊目六十九葉 二冊目七十九葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「傳 書儒和学医画」(一冊目)「傳
茶俳諧 狂歌 諸家忠孝 戲園雜種」(二冊目)

〔蔵書印〕一冊目と二冊目の卷末に「泊園文庫」印、「大阪船越町二丁目五拾六番
地岡本」印

〔備考〕大和綴じ 和文 墨筆・朱筆による書き入れ多し 第一冊目の挟み物に
富永仲基らの系図の覚書あり(南岳自筆) 附箋多し 『浪華人物誌』全四
卷(吉川弘文館、一九二〇年)の稿本 岡本撫山関係文書 題簽「浪華人

物誌 岡本撫山自筆稿本」の帙に収む

浪華名家墓所集 一冊一帙 暁鐘成撰 岡本撫山筆

LH2/丙77

〔葉数〕四十六葉（墨付四十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「浪華名家墓所集 全」

〔備考〕大和綴じ 人物の名、没年、享年、墓の所在、略伝などを日付順に記す 卷末に明治二十七年七月の識語あり、本書が富岡鉄斎旧蔵であることなどを記す 朱筆・墨筆による書き入れ多し 岡本撫山関係文書 題簽「浪華名家墓所集」の帙に収む

兼葭堂書目 一冊一帙 木村巽齋（兼葭堂）撰 木村巽齋筆

LH2/丙78

〔葉数〕二百十三葉（墨付百九十二葉）

〔内題・外題〕内題「写本目錄」 題簽「七香齋叢書」

〔蔵書印〕表紙に「泊園□圖書記」印 卷頭に「古香齋圖書記」印、「梅仙」印、「泊園藏書之記」印 卷末に「泊園藏書之記」印

〔備考〕四つ目綴じ 表紙に「泊園文庫」のラベル貼付 見返しの識語に「兼葭翁所持小口中自筆有之也 梅仙」「此書梅仙嘗贈余數年前又請携去今又寄來々去紛々要應歸我家耶 明治三十八年三月 七香齋主人」（南岳自筆）とあり 奥書に「兼葭堂書目 鈴木梅仙藏」とあり 朱筆による書き入れあり 題簽「兼葭堂書目」の帙に収む

那羅延遊草 一冊 田中鳴門撰

LH2/丙79

〔葉数〕二十二葉

〔内題・外題〕内題「那羅延遊草」 書き題簽「七香齋叢書」

〔蔵書印〕表紙裏の右下に「三井宗之」印 卷頭に「泊園藏書之記」印
〔備考〕四つ目綴じ 精写本 田中鳴門は名は章、大坂の鋳物師で菅甘谷の門人 朱筆・墨筆による書き入れあり 附箋あり 題簽「那羅延遊草」の帙に収む

那羅延遊草 一冊 田中鳴門撰

LH2/丙80

〔葉数〕二十頁

〔内題・外題〕内題「那羅延遊草」 外題「那羅延遊草」

〔備考〕排印本 大和綴じ 混沌詩社先賢遺墨展觀誌附録の別刷 見返しに頼春水の「在津紀事」の一節を印刷す 裏表紙の中央に「泊園書院藏書」と印刷す 題簽「那羅延遊草」の帙に収む

良山堂絶句三種稿 一冊一帙

阿部温（絹洲） 阿部温（絹洲）筆 LH2/丙81

〔葉数〕十葉

〔内題・外題〕内題「良山堂絶句三種稿」 書き付け外題「良山堂絶句 筈疑集三

弓」

〔蔵書印〕書き付け外題の下に「阿部温印」印、「良山堂記」印 卷頭に「泊園書院文庫」印

〔備考〕大和綴じ 表紙貼付「泊園文庫」のラベルに「庚 書目 良山堂絶句 冊数 一」とあり「絹洲啞稿」（版心上）「良山堂藏梓」（版心下）の朱刷野紙を用う 朱点多し 欄眉書き入れ多し 阿部絹洲は東咳友人で南岳の庇護者 題簽「良山堂絶句三種稿」の帙に収む

北山草堂藏書目 一冊一帙

吉田鋭雄（北山）著 長谷川雅樹筆 LH2/丙82

〔葉数〕八十一葉（墨付七十七葉）

〔内題・外題〕内題「北山草堂藏書目」 書き付け外題「北山草堂藏書目 昭和戊寅歳作」

〔備考〕四つ目綴じ 朱刷野紙を主に用う 朱筆・朱色鉛筆・墨筆・黒色ペン・鉛筆による書き入れあり 奥書に石濱純太郎のペン書きで「右は北山先生の自筆稿本を長谷川雅樹君に嘱して移写せしめたものである。大壺」とあり 題簽「北山草堂藏書目」の帙に収む

敦煌石室の遺書 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-1

〔頁数〕九十六頁

〔内題・外題〕外題「敦煌石室の遺書（懷德堂夏季講演）」

〔備考〕洋装活版 大正十四年（一九二五）十二月十八日發行 印刷は植田政藏（大阪）表紙右上にペンで「à monsieur Shinamoto de l'auteur」裏表紙にペンで「Shinamoto Kazuo 1929, August」と書き入れ 大正十四年八月五日から八日まで懷德堂で行なった連続講演を訂正のうえ活字にしたもの 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部『大壺先生玉稿』は石濱純太郎著述の抜刷五十七種を蒐めたもの 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生小傳 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-2

〔頁数〕十五頁

〔内題・外題〕外題「富永謙齋先生小傳」

〔備考〕洋装活版 昭和十二年（一九三七）十月三日發行 發行兼印刷者は玉樹安造（大阪） 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

眞家所藏謙齋先生遺著遺墨 二枚

LH2/丙83-3

〔頁数〕絵葉書三枚

〔内題・外題〕外題「眞家所藏 謙齋先生遺著遺墨」

〔備考〕表紙左下に「謙齋先生追遠紀念 昭和十二年十月三日 於西照寺」とあり、この時、大阪西照寺において富永仲基（謙齋）追遠紀念として配布されたもの 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西域出土漢本舉要講義案 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-4

〔頁数〕三十四頁

〔内題・外題〕内題「西域出土漢本舉要」 書き付け外題（鉛筆）「西域出土漢本 舉要講義案」

〔備考〕大和綴じ 油印 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

群書治要の闕卷に就いて 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-5

〔内題・外題〕外題「泊園書院學會々報 第一冊」

〔備考〕洋装活版『泊園書院學會々報』第一冊 大正十年二月二日發行 編纂兼發行者は泊園書院学会 全五十八頁 石濱の論文「群書治要の闕卷に就いて」はこの号の五十三～五十八頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏遺文雜錄（序文に代へて） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-6

〔頁数〕百十四頁

〔内題・外題〕外題「西藏文字對照 西夏文字抄覽」

〔備考〕洋装活版 大阪東洋學會『亜細亜研究』第四号 大正十五年三月十五日發行 同号はニコライ・ネフスキーの「西藏文字對照 西夏文字抄覽」を掲載する 石濱の「西夏遺文雜錄」はその序文であり、この号の三十七頁に掲載される 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

金字蒙文藏經金光明經の斷簡に就て 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-7

〔頁数〕二十九頁

〔内題・外題〕外題「金字蒙文藏經金光明經の斷簡に就て」

〔藏書印〕二十九頁裏面に「好洛間事室」、「五一」印

〔備考〕洋装活版『支那學』第四卷第三号抽印 昭和二年（一九二七）九月 赤
 ベンによる書き入れあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け
 外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

敦煌雜考（續） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-8

〔頁数〕十頁

〔内題・外題〕外題「敦煌雜考（續）」

〔備考〕洋装活版『支那學』第五卷第二号抜刷 昭和四年（一九二九）六月 島
 本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に
 収む

番漢合時掌中珠 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著

LH2/丙83-9

〔頁数〕三頁+図三頁

〔内題・外題〕内題「番漢合時掌中珠 附圖版五」書き付け外題（鉛筆）「番漢
 合時掌中珠」

〔備考〕洋装活版『史林』第十五卷第一号抜刷 昭和五年（一九三〇）一月 島
 本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に
 収む

流沙遺文小記 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-10

〔内題・外題〕外題「龍谷史壇 第二卷第二號」

〔備考〕洋装活版『龍谷史壇』第二卷第二号 昭和五年（一九三〇）二月五日発
 行 全五十二頁 石濱の論文「流沙遺文小記」はこの号の一六頁に掲載
 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱
 に収む

殿版蒙文大藏經考 一冊 石濱純太郎

LH2/丙83-11

〔頁数〕七頁+図一頁

〔内題・外題〕外題「殿版蒙文大藏經考」

〔備考〕洋装活版『大谷學報』第十一卷第三号抜刷 昭和五年（一九三〇）九月
 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱
 に収む

故バルトオルド先生 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-12

〔頁数〕七頁

〔内題・外題〕外題「故バルトオルド先生」

〔備考〕洋装活版『龍谷大學論叢』第二九五号抜刷 昭和五年（一九三〇）十二
 月二十五日 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先
 生玉稿」の箱に収む

故バルトオルド先生 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-13

〔内題・外題〕外題「龍谷大學論叢 第二九五號」

〔備考〕洋装活版『龍谷大學論叢』第二九五号 昭和五年（一九三〇）十二月二
 十五日発行 全百四十四頁 石濱の文章「故バルトオルド先生」はこの号
 の八十八十六頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け
 外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西域出土の西藏本 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-14

〔頁数〕十四頁

〔内題・外題〕外題「西域出土の西藏本」

〔備考〕洋装活版『大谷學報』第十二卷第一号抜刷 昭和六年（一九三一）一月
 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱
 に収む

于闐文智炬陀羅尼經の斷片 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著

LH2/丙83-15

〔頁数〕三頁+図一頁

〔内題・外題〕内題「于闐文智炬陀羅尼經の斷片（靜安學社叢稿）」

〔備考〕洋装活版『龍谷大學論叢』第三百一號抜刷 昭和七年（一九三二）五月

島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏國名考補正 一冊 ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎著 LH2/丙83-16

〔頁数〕十二頁

〔内題・外題〕外題「西夏國名考補正」

〔備考〕洋装活版『龍谷大學論叢』第三百五號抜刷 昭和八年（一九三三）二月

島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

西夏語譯大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品 一冊

ニコライ・ネフスキ 石濱純太郎 廣瀬督著 LH2/丙83-17

〔頁数〕三頁+図四頁

〔内題・外題〕外題「西夏語譯大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品」

〔備考〕洋装活版『マユーラ』第二號抜刷 昭和八年（一九三三）十二月 島本

一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

群書治要の史類 一冊 石濱純太郎 LH2/丙83-18

〔頁数〕二十三頁

〔内題・外題〕外題「群書治要の史類」

〔備考〕洋装活版『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年（一九三四）五月 島本

一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

殷墟學文獻小志 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-19

〔内題・外題〕外題「龍谷史壇 第十四號」

〔備考〕洋装活版『龍谷史壇』第十四號 昭和九年（一九三四）九月五日發行 全七十頁 石濱の論文「殷墟學文獻小志」はこの号の一〇二頁に掲載

島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿蒙言語の系統 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-20

〔頁数〕五十六頁

〔内題・外題〕外題「滿蒙言語の系統」

〔備考〕洋装活版 岩波講座東洋思潮第五回配本（東洋言語の系統） 岩波書店 昭和九年（一九三四）十月十五日發行 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

羅馬字母より注音識字へ 一冊 石濱純太郎 LH2/丙83-21

〔頁数〕十四頁

〔内題・外題〕外題「羅馬字母より注音識字へ」

〔備考〕洋装活版『龍谷學報』第三百十一號抜刷 昭和十年（一九三五）一月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

元朝秘史考 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-22

〔頁数〕九頁

〔内題・外題〕外題「元朝秘史考」

〔備考〕洋装活版『龍谷史壇』第十五号抜刷 昭和十年（一九三五）四月 ペンによる書き入れあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

ロシアの東洋學 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-23

〔内題・外題〕外題「東洋史研究 第一卷第六號」
〔備考〕洋装活版『東洋史研究』第一卷第六号 昭和十一年（一九三六）八月三十日発行 全百頁 石濱の論文は「學界展望」としてこの号の七十三〜八十九頁に掲載 表紙右上に墨筆で「島本學兄」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

故渡部薫太郎先生 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-24

〔内題・外題〕外題「東洋史研究 第二卷第一號」
〔備考〕洋装活版『東洋史研究』第二卷第一号 昭和十一年（一九三六）十月二十三日発行 全九十九頁 石濱の文章は「彙報」の九十二〜九十四頁に掲載 表紙右上にペンで「島本學兄」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

タリヒカタイ考 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-25

〔頁数〕六頁+図版一頁
〔内題・外題〕外題「タリヒカタイ考」
〔備考〕洋装活版『東洋史研究』第二卷第六号抜刷 昭和十二年（一九三七）八月 表紙右上にペンで「島本學兄大政」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

讀書隨筆 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-26
〔内題・外題〕外題「泊園 發行十年特輯號」

〔備考〕洋装活版『泊園』第三十一号 一九三八年一月二十日発行 編集兼発行人は的場信太郎 發行所は泊園誌社 全三十二頁+図版二頁 石濱の文章はこの号の十六〜十八頁に掲載 目次での執筆者名は「石濱大壺」 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

オツセンドウスキー 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-27

〔内題・外題〕外題「宗教と藝術 第十八卷第二・三號」
〔備考〕洋装活版『宗教と藝術』第十八卷第二・三号 昭和十三年（一九三八）十一月二十五日発行 全九十六頁 石濱の文章はこの号の一〜五頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

近刊成吉思汗傳を讀んで 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-28

〔頁数〕十一頁
〔内題・外題〕外題「近刊成吉思汗傳を讀んで」
〔備考〕洋装活版『龍谷史壇』第二十三号抜刷 昭和十四年（一九三九）二月 表紙右上にペンで「島本學兄教正」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

静安學社通報 第一期 一冊 石濱純太郎編 LH2/丙83-29

〔頁数〕二十頁
〔内題・外題〕外題「静安學社通報」
〔備考〕洋装活版 編輯兼発行者は静安學社（代表 石濱純太郎） 一九二七年十二月三十日発行 石濱は高橋盛孝、ニコライ・ネフスキー、浅井慧倫、笹谷良造らと中国の學者王国維を記念し東洋學研究を趣旨とする「静安學社」（静安は王国維の字）を發起してその幹事となる 重建懷德堂内に事務局を置き、この『静安學社通報』第一期を刊行 島本一男編『大壺先生玉稿』の

一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪漢學大會研究報告 一冊 石濱純太郎編

LH2/丙83-30

〔頁数〕八十九頁

〔内題・外題〕外題「大阪漢學大會研究報告」

〔備考〕洋装活版 典籍之研究社 昭和十三年（一九三八）十二月二十八日発行
懷德堂を会場として開かれた第七回大阪漢學大會の研究報告論文集「漢學大會」は東京帝国大学文学部内の漢学会と財団法人が協力して毎年開催していた会で、第七回は石濱が委員となって開催された 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

燉煌出土漢藏對音の材料と韻鏡との比較（其一） 一冊 財津愛象著

LH2/丙83-31

〔頁数〕四十九頁

〔内題・外題〕外題「燉煌出土漢藏對音の材料と韻鏡との比較（其一）」

〔備考〕洋装活版『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年（一九三四）三月 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

唐鈔本文選殘篇跋 一冊 狩野直喜著 書後 石濱純太郎撰

LH2/丙83-32

〔頁数〕三十一頁

〔内題・外題〕外題「唐鈔本文選殘篇跋」

〔備考〕洋装活版『東洋學叢編』第一冊抜刷 昭和九年（一九三四）三月 石濱は狩野の跋（漢文）のあとに「書後」として意見を記す（漢文、二頁） 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

航歐集 一冊 内藤虎次郎（湖南）

LH2/丙83-33

〔葉数〕十八葉

〔内題・外題〕外題「航歐集」

〔備考〕康熙綴じ 外袋あり 外袋の表に「内藤虎敬呈」の朱文印あり 大正十五年（一九二六）九月序 大正十三年（一九二四）七月から翌年の内藤湖南ヨーロッパ歴訪時における漢詩文を載せる この欧州歴訪には石濱も同行した 冒頭に湖南の律詩十五首「航歐十五律」を湖南手録により載せる 鈴木虎雄、長尾甲（雨山）、倉石武（武四郎）、織田萬らの送別詩も掲載する 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-34

〔頁数〕十三頁

〔内題・外題〕外題「滿州語譯大藏經考」

〔備考〕洋装活版『書物の趣味』第一冊抜刷 京都・書物の趣味社 昭和二年（一九二七）十一月一日発行 末尾に「好洛間事室」、「四」印 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考（續） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-35

〔頁数〕十二頁

〔内題・外題〕外題「滿州語譯大藏經考（續）」

〔備考〕洋装活版『書物の趣味』第二冊抜刷 京都・書物の趣味社 昭和三年（一九二八）五月二十八日発行 島本一男編「大壺先生玉稿」の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

滿州語譯大藏經考（續々） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-36

〔頁数〕十一頁

〔内題・外題〕外題「滿州語譯大藏經考(續)」
 〔備考〕洋装活版『書物の趣味』第六冊別刷 京都・書物の趣味社 昭和五年(一九三〇)十二月二十五日 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

續露國の文獻目錄 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-37

〔頁数〕四頁
 〔内題・外題〕内題「續露國の文獻目錄」
 〔備考〕洋装活版 発行年月・掲載誌未詳 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

京都帝國大學所藏 蒙文丹殊爾記 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-38

〔頁数〕七頁+図一頁
 〔内題・外題〕外題「京都帝國大學所藏蒙文丹殊爾記」
 〔備考〕洋装活版 桑原博士還暦記念会編『桑原博士還暦記念東洋史論叢』抜刷 京都・弘文堂書房 昭和五年(一九三〇)五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

無量壽宗要經考補 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-39

〔頁数〕九頁
 〔内題・外題〕外題「無量壽宗要經考補」
 〔備考〕洋装活版『東洋學報』第十六卷第二号抜刷 昭和二年(一九二七)六月末尾に「好洛間事室」印、「二十二」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

北堂書鈔の舜典孔傳 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-40
 〔頁数〕十二頁

〔内題・外題〕外題「北堂書鈔の舜典孔傳」
 〔備考〕洋装活版『内藤博士還暦祝賀支那學論叢』抜刷 京都・弘文堂書房 正十五年(一九二六)五月 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-41

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第三百十號」
 〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第三百十号 昭和十年(一九三五)六月十五日發行 全三十四頁 石濱の文章は「浪華儒林傳(1) 富永謙齋先生」としてこの号の十六〜十九頁に掲載 赤ペンによる書き入れあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

菅甘谷先生 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-42

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第三百十一號」
 〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第三百十一号 昭和十年(一九三五)七月十五日發行 全三十頁 石濱の文章は「浪華儒林傳(2) 菅甘谷先生」としてこの号の十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂遺贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤東咳先生 一冊 石濱純太郎著 LH2/丙83-43

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第三百十二號」
 〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第三百十二号 昭和十年(一九三五)九月十五日刊行 全三十一頁 石濱の文章は「浪華儒林傳(3) 藤澤東咳先生」としてこの号の十五〜十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤南岳先生 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-44

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百三十三號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百三十三号 昭和十年（一九三五）十月十五日発行 全三十二頁 石濱の文章は「浪華儒林傳 藤澤南岳先生」としてこの号の十四～十五頁、三十二頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂 寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

藤澤南岳先生 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-45

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百三十三號」

〔備考〕LH2/丙83-44に同じ

梅花社の篠崎氏（上） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-46

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百三十四號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百三十四号 昭和十年（一九三五）十一月十五日発行 全三十八頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（五）梅花社の篠崎氏（上）」としてこの号の二十一～二十二頁に掲載 表紙右上にペンで「島本君」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

梅花社の篠崎氏（下） 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-47

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百三十五號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百三十五号 昭和十一年（一九三六）一月一日発行 全三十頁 石濱の文章は「浪華儒林傳（六）梅花社の篠崎氏（下）」としてこの号の二十四～二十六頁に掲載 表紙右上にペンで「島本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

堀河學派の中江岷山 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-48

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百四十二號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百四十二号 昭和十一年（一九三六）九月十五日発行 全二十四頁 石濱の文章は「續浪華儒林傳（三）堀河學派の中江岷山」としてこの号の十二～十三頁に掲載 表紙右上にペンで「島本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

一井鳳梧 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-49

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百四十三號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百四十三号 昭和十一年（一九三六）十月十五日発行 全二十二頁 石濱の文章は「續浪華儒林傳（四）一井鳳梧」としてこの号の十～十一頁に掲載 表紙右上にペンで「島本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

掖玖の聖人如竹散人 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-50

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百四十五號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百四十三号 昭和十二年（一九三七）一月一日発行 全二十四頁 石濱の文章は「續浪華儒林傳（五）掖玖の聖人如竹散人」としてこの号の二十二頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪の漢學 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-51

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第百五十六・七號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第百五十六・七号 昭和十三年（一九三八）三月十五日発行 全二十二頁 石濱の文章はこの号の一～四頁に掲載 表

紙右上にペンで「島本学兄」と書き付けあり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

富永謙齋先生傳續考 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-56

〔内題・外題〕外題に「創立五十周年記念特輯號 青光」

〔備考〕洋装活版『青光』関西大学創立五十周年記念特輯号 関西大学千里山学友会新聞部 昭和十一年（一九三六）六月刊行 全百六十五頁 石濱純太郎の論文はこの号の百十二～百十三頁 表紙外題の右上に「謹呈」の印あり 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

大阪の漢學 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-52

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第五百十六・七號」

〔備考〕LH2/丙83-51に同じ 表紙右上にペンで「的場菊堂学兄」と書き付けあり

東洋文學科増設に際して 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-53

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第二百三十七號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第二百三十七号 昭和二十六年（一九五一）二月十五日発行 全十六頁 石濱の文章はこの号の見返しに掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

龜田氏貯春樓所藏本節用集目錄 一冊 龜田次郎編

LH2/丙83-57

〔内題・外題〕内題「家藏節用集目錄」外題「龜田氏貯春樓所藏本節用集目錄」

〔頁数〕七頁

〔備考〕油印 外題の左下に「静安学社」とあり 内題の下に「昭和八年六月現在」とあり ペンによる修正あり

謹んで黄坡先生に告ぐるの文 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-54

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第二百三十八號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第二百三十八号 昭和二十六年（一九五一）四月十五日発行 全二十頁 石濱の文章はこの号の十六頁に掲載 表紙右上に鉛筆で「的場菊堂寄贈」と書き付け 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

文稿 一冊 井狩雪溪著 自筆カ

LH2/丙84-1

〔葉数〕六葉

〔内題・外題〕内題なし 外題なし 巻頭附箋に「文稿」とあり

〔備考〕大和綴じ「富永氏 呈謙齋梧右 井總拜」と表書きあり「九臯集序文中」などの見出しあり 欄外書き入れ、朱点多し 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生墓右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

泊園文庫について 一冊 石濱純太郎著

LH2/丙83-55

〔内題・外題〕外題「關西大學學報 第二百四十二號」

〔備考〕洋装活版『關西大學學報』第二百四十二号 昭和二十六年（一九五一）九月十五日発行 全十四頁 石濱の文章はこの号の九～十頁に掲載 島本一男編『大壺先生玉稿』の一部 書き付け外題「大壺先生玉稿」の箱に収む

東崖先生文抄 一冊 伊藤東涯著 富永東華筆

LH2/丙84-2

〔内題・外題〕内題「紹述集抄」書き付け外題「東崖先生文抄」

〔葉数〕三十八葉

〔備考〕大和綴じ 表紙右に「東華先生之書 眞市右衛門」、扉に「安永五年

丙申八月東華老人書于聚樂坊僑居」と書き付け 扉裏に「東屋ノ文日本ノ事ユヘ引キ合セノ為メ入用ノ」氏ヲキガキスル也文章モ上手也」とあり 内 容は「序類」、「尺牘」、「墓碑」、「題跋」、「策問類」、「傳」、「志類」、「考議 疏上梁文頌歌讀類」に分かつ 訓点つき 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東 華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯 集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収 む 富永仲基関係資料

文則

一冊 富永東華著 抄写者未詳

LH2／丙84-3

〔葉数〕 十三葉

〔内題・外題〕 内題「文則」 書き付け外題「九臯先生文則 卷一」

〔備考〕 大和綴じ 表紙右下に「東華先生著 眞氏」と書き付け 巻首に「文則 卷第一 浪華 九臯先生富永重 著」、巻末に「九臯先生文則卷第一終」とあり 王宗沐「龍溪王先生集舊序」、王守仁「贈王堯卿序」、韓愈の「送陳 形秀才序」「送名堅序」「畫記」など数篇を集録 訓点 欄外書き入れ多し 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基 之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／ 東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

稿文

一冊 富永仲基筆

LH2／丙84-4

〔葉数〕 十二葉（墨付十一葉）

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「稿文」

〔備考〕 大和綴じ 表紙右下に「富永氏 幾三郎」と書き付け 漢詩文の抜き書 き 柳宗元「宥蝮蛇文」、歐陽脩「雜記」、羅隱「說天鷄」、曹植「蜻蛉賦」、 陸龜蒙「蠹化」、蘇軾「洞庭春色賦」「中山松繆賦」「禹碑」、黃庭堅「張仲 吉綠陰堂記」、楊雄「酒箴」、皇甫嵩「醉鄉日月」、蘇軾「書東臯子傳後」、劉 備「昭烈封張飛西鄉侯策」「拜馬超嚴鄉侯策」、劉禪「賜陳祗諡詔」、「馬良

與諸葛亮書」、「秦宓答王商書」「桓温上表」、卻正「釋議」を抄写す 句点 あり 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧 ／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華 之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

東華秘笈

一冊 富永東華著 富永東華筆

LH2／丙84-5

〔葉数〕 七十一葉

〔内題・外題〕 内題なし 書き付け外題「東華秘笈」

〔備考〕 大和綴じ 表紙右下に「東華先生之書 眞 市右衛門」と書き付け 和 文 藥草、食物、治療、打碑法、棺槨など諸事物に関する考証的覺書 反 故紙を使う 訓点多し 真市右衛門旧蔵 題簽「仲基東華著」の帙に収む 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右 軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係 資料

東華集

一冊一帙 富永東華著 富永東華筆

LH2／丙84-6

〔葉数〕 十九葉

〔内題・外題〕 内題「東華集」 書き付け外題「東華草稿 卷一」

〔備考〕 大和綴じ 表紙右下に「眞氏」と書き付け 巻首に「東華集卷一 浪華 富重著」とあり 朱点 朱筆による訓点 朱筆・墨筆による書き入れ多し 真市右衛門旧蔵 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯 集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収 む 富永仲基関係資料

「題梅畫」七言絶句

一枚 伊藤東涯書

LH2／丙84-7

〔題署〕 「題梅畫 東崖」

〔備考〕 右上に「東厓書記」印 厚紙で裏打ちす 紙袋に入る 「仲基之著 律畧

／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

手習い帳 一帖 富永仲基筆

〔葉数〕二十五葉

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕帖装 和文の手紙、和歌、『易』六十四卦名など 表紙に「享保十年 幾三郎 手本 富永」と書き付け 「享保十年ハ（昭和十三年迄）二百十四年前」と墨書された紙片を表紙に貼り付け 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る
「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

LH2／丙84-8

手習い帳 一帖 道明寺屋次郎吉筆

〔葉数〕十二葉

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕帖装 和文の手紙 卷末に「道明寺屋次郎吉 元文四年己未 中秋望前」とあり 「元文四年ハ（昭和十三年迄）二百年前」と墨書された紙片を卷末に貼り付け 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

LH2／丙84-9

手習い帳 一帖 筆者未詳

〔葉数〕十六葉

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕帖装 和文の手紙 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書

LH2／丙84-10

／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

芳春書 十枚 富永芳春筆

〔枚数〕十枚のうち七枚は「眞氏 芳春君書」と表書きする袋に入る

〔備考〕和文 和歌など 真市右衛門旧蔵 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

LH2／丙84-11

口上 一枚 五井藤九郎筆

〔内題・外題〕冒頭に「口上」とあり

〔備考〕和文 文末に「十一月廿九日 五井藤九郎／川井立枝様」とあり 川井立枝宛ての手紙 和文 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

LH2／丙84-12

富永九華宛書簡 一枚 三宅直一郎筆

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕和文 末尾に「六月二日 富直次郎様 三宅直一郎」とあり 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／謙齋先生摹右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富永仲基関係資料

LH2／丙84-13

崔船宛書簡 山水画 各一枚 富永芳春筆 富永九華画

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕書簡は和文で十九・七×三十・八センチ 画は十三・七×十八・四センチ 「眞氏 芳春君之書／九華君之画」と表書きする袋あり 真市右衛門旧蔵 紙袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九臯集／

LH2／丙84-14

謙齋先生墓右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む
富永仲基関係資料

富永氏墓碑銘 一冊 真市右衛門筆 LH2／丙84-15

〔内題・外題〕内題なし 外題「富永氏 墓碑銘」

〔葉数〕三葉

〔備考〕大和綴じ 見返しに「富永家と眞家との関係に就ては富永芳春君の長子
殺齋へ眞氏より利勢女が入嫁し芳春君の第五子東華君は眞氏の幾女のもと
ね入家したという深い関係にある。然るに富永家は後継なく今を去る約二
百年前遂に絶家するの悲運に陥られ眞家祖先は之を悲みて其墓を守護され
又眞家畧代の主は其遺業を継がれ今日に至るまで守護されて來たのである。
そこで私は今世の時代を考へては將來墓地の移轉且又縮少等の事情が起る
やも知れぬのでここに記録し後世に傳へ眞家の續く限り其主たる者は富永
家の墓碑を守護せねばならぬ。これは眞家祖先の殘されたる義務なりと思
考する依つて此處に書する。／昭和貳拾八年（皇紀貳千六百拾參年）初秋
／九世 眞市右衛門／具宣」とペンで記す ついで大阪市天王寺区下寺町
の西照寺にある富永氏の墓石および墓碑銘を写しとる 眞市右衛門旧蔵 紙
袋に入る 「仲基之著 律畧／仲基之著 樂律考／仲基之著 九皋集／謙
齋先生墓右軍蘭亭記／眞東華之書／東華秘笈」と表書きした箱に収む 富
永仲基関係資料

泊園（新聞） LH2／丙85

〔標題〕「泊園」

〔存卷〕第一～十二、十四、十五号（泊園社発行 昭和二年十二月二十二日～昭
和五年十一月三十日）
第一、三～三十、三十二～三十六、四十、四十一、第二卷第二号（泊園
誌社発行、昭和八年一月一日～昭和十八年五月三十一日）

〔発行者・発行年月〕泊園社・泊園誌社 昭和二年（一九二七）十二月二十二日
～昭和十八年（一九四三）五月三十一日

〔備考〕石濱純太郎・藤澤黄坡によつて編集、刊行された新聞 三十二×二十三・
五センチ 各号おおむね四頁 紙箱に入る

泊園誌社発行分に別紙の附録あり…第四号「城山道人稿三十四」、第五号
「城山道人稿五十七」、第十号「甘谷先生百七十年祭記念」、第十一号「城山
道人稿十八」、第十二号「城山道人稿十九」「藤澤黄坡先生華甲祝賀會」、第
十三号「城山道人稿二十一二十二」、第十四号「城山道人稿二十三二十四」、
第十六号「城山道人稿二十七二十八」、第十七号「城山道人稿二十九三十」、
第二十八号「泊園會報」

挟み物…「富永仲基先生關係資料陳列目錄」一枚（大正十三年五月二十五
日 於泊園書院學會）、第十二号…「泊園會第一回定時總會報告書」一枚、会
費に関する紙片一枚、第二十五号…「城山道人稿完結に就き急告」一枚、第
二十六号…会費に関する紙片一枚

探奇小録 一冊 藤澤南岳著 LH2／丙86

〔葉数〕二十三葉

〔内題・外題〕内題「探奇小録」 題簽「探奇小録 全」

〔発行者・発行年月〕藤澤南岳 明治二十年（一八八七）七月

〔備考〕活版 康熙綴じ「七香齋藏」の用箋を用う 奥付に「明治二十年六月六
日御届 同年七月刻成」「著述兼出版人 愛媛縣土族 藤澤南岳」「大阪府
東區淡路町一丁目十六番地寄留」とあり「蒼日」に始まる按語を記した紙
片を多く挟む 朱筆・墨筆による書き入れあり

七香齋印譜 一帖一帙 藤澤南岳 LH2／丙87

〔葉数〕十九葉（うち三葉に印影あり）

〔内題・外題〕内題・外題ともになし

〔備考〕帖装 南岳の私印十三顆を押印す 冒頭に「盡自得 七香齋主人」と墨

筆で自題す 題簽「七香齋印譜」の帙に収む 南岳の印譜については吾妻

重二編著『泊園文庫印譜集』（泊園書院資料集成二、関西大学東西学術研究

所研究資料集刊二十九―二、関西大学出版部、二〇一三年三月）を参照

城山道人稿 一冊二帙 中山城山著 中山士驪輯校

LH2/丙88

〔葉数〕五十一葉

〔内題・外題〕内題「城山道人稿」書き付け外題「城山道人稿 全」

〔蔵書印〕巻頭に「大西藏書」「春日氏印」印 巻末に「藤章」「士明」印

〔備考〕四つ目綴じ 四周单边有界の用箋を用う 巻首に「城山道人稿 東郷 藤

鷹伯鷹著／男 中山士驪輯校」とあり 藤澤黄坡の跋文あり、末尾に「昭

和丁丑一月 後學 藤澤章謹識」と記す 朱点 墨筆による書き入れあり

題箋「城山道人稿」の帙に収む 昭和十二年（一九三七）四月泊園書院が

「泊園叢書」第一冊として影印刊行した『城山道人稿』の原本

洗醒餘録 一冊 藤澤黄鶴著

LH2/丙89

〔葉数〕二十六葉

〔内題・外題〕内題「洗醒餘録」題簽「洗醒餘録 全」

〔発行者・発行年月〕藤澤黄鶴 大正三年（一九一四）年十二月二十五日

〔備考〕石印 康熙綴じ 四周双边有界の用箋を用う 巻首に「洗醒餘録 浪華

黄鶴藤澤元撰」とあり 巻末に乙卯（一九一五）年十月二十一日「靖堂」に

寄せた黄鶴の識語あり 奥付に「大正三年十二月二十二日印刷／大正三年

十二月二十五日発行／非賣品」「著者 大阪市東區東平野町五丁目百八十

九番地ノ一 泊園書院 藤澤黄鶴」とあり

本書は吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』（泊園書院資料集成一、東西

学術研究所資料集刊二十九―一、二〇一〇年）に影印を載せるが、巻末の

黄鶴識語は影印にはない

東咳先生略傳 一冊 永田仁助著

LH2/丙90

〔頁数〕八頁

〔内題・外題〕内題「東咳先生略傳」外題「東咳先生略傳」

〔発行者・発行年月〕藤澤先生贈叙位祝賀會 大正四年（一九一五）十二月十五日

〔備考〕活版 大和綴じ 和文 大正天皇即位の大礼実施の際、東咳は従四位に

追贈され、南岳は正五位に叙せられた その叙位祝賀會において頒布され

た小冊子

東脩領收録 一冊

LH2/丙91

〔葉数〕四十八葉（墨付三十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「明治三十四年一月 東脩領收録」

〔蔵書印〕裏表紙に「泊園書院」印

〔備考〕横帳綴じ 裏表紙に「泊園書院」と大書す

泊園書院の東脩（月謝）受領簿 毎月の東脩受領につき、上に「一 東脩

壹封」（二人目以降は「一同」と記し、下に姓名を記したうえで、上に

「領」印を、姓名の上に「藤澤」印を押す 明治三十四年（一九〇一）一月

から大正八年（一九一九）四月までの記録 帙なし

通學生月謝領收簿 一冊 藤澤南岳ら筆

LH2/丙92

〔葉数〕六十九葉（墨付二十七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大正五年十月初志 通學生月謝領收簿」

〔備考〕横帳綴じ 裏表紙に「泊園書院」と大書す

泊園書院通學生の月謝受領簿 毎月の月謝受領につき、上に「一月謝壹

封」（二人目以降は「一同」と記し、下に姓名を記したうえで、上に「領」

印を、姓名の上に「藤澤」印を押す 「一月謝壹封」は大正七年三月分か

ら「一金老円束」と記され、同年十月から「一金貳円」と記される 大

正五年（一九一六）九月から大正八年十二月までの記録 帙なし

月謝領收簿 一冊 藤澤黃坡筆か

LH2/丙93

〔頁数〕百九十六頁

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大正三年甲寅 月謝領收簿」

一月～十二月の上に「領」印多数 巻末に「大阪市南區・竹屋町九番地・

泊園書院分院」印

〔備考〕洋装 青刷罫紙を用う 裏表紙に「泊園書院分院」と墨書す 最終頁に

「泊園書院分院」印あり 泊園書院分院の学生の月謝受領簿 十二月分の表

が印刷され下に姓名を記す 各月の枠内に「領」印を押し、あるいは「欠」

「退」などと記す 大正三年（一九一四）から大正十三年（一九二四）まで

の記録 挟み物として「泊園書院分院」の領収書三枚、大阪朝日新聞号外

二点、「小爲替金受領證書」（式円也） 大正十三年七月五日、「日本通用」

の広告あり

市郡各地講演會雜錄

一冊 藤澤南岳ら筆

LH2/丙94

〔葉数〕百葉（墨付十葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大正甲寅四月 市郡各地講演會雜錄」

〔備考〕洋装 「池村製」の用箋を用う 裏表紙に「大阪東區東平野町 泊園書院」

と墨書す 扉に尚德會、柴嶋講演會、進正社、崇德會、第四師團講演會、友

仁會、加嶋振德會の日程を墨書す 続いて各講演會の日付と参加者名簿な

どを列記す

冒頭に「七八両月過程表」（癸巳七月 泊園書院）一枚および友仁會贊助

員・維持會員を列記した名簿三葉を挟む

君蒿餘影

一冊一帙 藤澤南岳・藤澤黃鶴編

LH2/丙95

〔葉数〕六十二葉

〔内題・外題〕内題なし 題簽「君蒿餘影」

〔備考〕大和綴じ 藤澤南岳題字「念茲在茲 南岳」（「君子香」印、「香翁」印）

藤澤黃鶴跋（大正二年七月） 巻末に「的場菊堂遺書」印

大正二年（一九一三）四月六日、東畎五十年祭（没後五十年）を大阪生

玉の齡延寺で挙行した際、諸家の藏する東畎の遺墨を大寶寺で多数展示し

た それらの遺墨を写真石印により収載した記念帖 帙入り 関西大学図

書館の封筒を挟み、封筒内に東畎・南岳の書の写真を多数収む

泊園同窓會誌 第四冊

LH2/丙96-4

〔頁数〕二十八頁

〔内題・外題〕外題「泊園同窓會誌 第四冊」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…坂本栗夫 明治二十七年（一九一四）六月

三日

〔備考〕洋装活版 表紙右下に「大阪市東區東平野町五丁目壹八九★泊園書院」の

印あり 見返しに「泊園同窓會規則」を載せる

巻頭に藤澤東畎の七言律詩「偶成」（扇面）の写真を載せる 正誤表を挟

む 裏表紙上に「（非賣品）」と印刷す

泊園同窓會誌 第五冊

LH2/丙96-5

〔頁数〕三十頁

〔内題・外題〕外題「泊園同窓會誌 第五冊」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…坂本栗夫 明治二十八年（一九一五）七月

一日

〔備考〕主な書誌事項はLH2/丙96-4に同じ 巻頭に藤澤南岳の明治辛卯（明治

二十四年）正月の聖勅奉読式における漢文の即興賦（全四頁）を載せる

第九回泊園同窓會誌

LH2/丙96-9

〔頁数〕三十七頁

〔内題・外題〕外題「第九回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…坂本栗夫 明治三十年（一八九七）六月三日
〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-4に同じ

第十回泊園同窓會誌

〔頁数〕三十四頁

LH2／丙96-10

〔内題・外題〕外題「第十回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…坂本栗夫 明治三十一年（一八九八）七月六日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-4に同じ

第十一回泊園同窓會誌

〔頁数〕二十六頁

LH2／丙96-11

〔内題・外題〕外題「第十一回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…篠田栗夫 明治三十二年（一八九九）八月二十九日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-4に同じ

第拾貳回泊園同窓會誌

〔頁数〕十六頁

LH2／丙96-12

〔内題・外題〕外題「第拾貳回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…篠田栗夫 明治三十三年（一九〇〇）十月二十二日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-4に同じ

第拾參回泊園同窓會誌

〔頁数〕二十六頁

LH2／丙96-13

〔内題・外題〕外題「第拾參回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…篠田栗夫 明治三十四年（一九〇〇）十一月三日

〔備考〕洋装活版 表紙に目次を載せる 表紙右下に「大阪市東區東平野町五丁目壹八九★泊園書院」の印あり 見返しに「泊園同窓會規約」を載せる

第拾四回泊園同窓會誌

〔頁数〕二十八頁

LH2／丙96-14

〔内題・外題〕外題「第拾參回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…篠田栗夫 明治三十六年（一九〇〇）四月
〔備考〕副本あり（封筒入り） 表紙に目次を載せ、目次の下に「泊園同窓會幹事印」の印あり 巻頭に南岳の写真を載せる 二十五頁に「泊園文庫設立（假規約）」を載せるが、すぐ下に「此件取消」の印あり（副本も同じ） 他の書誌事項はLH2／丙96-13に同じ

第拾五六回泊園同窓會誌

〔頁数〕二十五頁＋四十四頁（登門録）

LH2／丙96-15/16

〔内題・外題〕外題「第拾五六回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕不明 明治三十八年（一九〇五）初頭カ
〔備考〕洋装活版 表紙左下に「泊園同窓會」とあり 「登門録」を附載し、南岳自身の朱筆訂正あり、末尾に「四十二年蘭月校正 七香齋」と朱書す 「登門録」は吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』（泊園書院資料集成一、東西学術研究所資料集刊二十九一、二〇一〇年）に影印を載せる

第拾七回泊園同窓會誌

〔頁数〕二十五頁

LH2／丙96-17

〔内題・外題〕外題「第拾七回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者…梅見春吉 明治三十八年（一九〇五）十二

月二十七日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ

第拾八回泊園同窓會誌

〔頁数〕四十頁

LH2／丙96-18

〔内題・外題〕外題「第拾八回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 明治四十年（一九〇七）二月五日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ

第拾九回泊園同窓會誌

〔頁数〕四十二頁

LH2／丙96-19

〔内題・外題〕外題「第拾九回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 明治四十一年（一九〇八）一月一日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ 朱による訂正あり

第貳拾回泊園同窓會誌

〔頁数〕三十一頁

LH2／丙96-20

〔内題・外題〕外題「第貳拾回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 明治四十二年（一九〇九）一月一日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ 冒頭に泊園同窓會設立二十年を記念する南岳の祝辞（漢文）を載せる 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾壹回泊園同窓會誌

〔頁数〕五十四頁

LH2／丙96-21

〔内題・外題〕外題「第貳拾壹回泊園同窓會誌」
〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 明治四十三年（一九一〇）二月二十八日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾貳回泊園同窓會誌

〔頁数〕三十三頁

LH2／丙96-22

〔内題・外題〕外題「第貳拾壹回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 明治四十四年（一九一一）一月三十日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ 奥付の上部に「東都泊園同窓會規約」を載せる

第貳拾參回泊園同窓會誌

〔頁数〕六十六頁＋五十八頁＋十六頁

LH2／丙96-23/26

〔内題・外題〕外題「第貳拾壹回泊園同窓會誌」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行者：梅見春吉 大正六年（一九一七）十二月二十四日

〔備考〕主な書誌事項はLH2／丙96-13に同じ 巻頭に同窓會延期に関する「緊告」（大正六年十二月）、泊園書院の写真二枚、明治四十四年（一九一一）十月の南岳古稀記念祝賀会の写真二枚、大正二年（一九一三）四月の東畠先生五十年祭の写真二枚、大正四年（一九一五）四月の贈位報告会祝の写真を一枚を載せる 奥付のあとに「泊園同窓會規約」と「東都泊園同窓會規約」をまとめて載せる 墨筆による書き入れあり

泰梁餘哀

LH2/丙97

〔頁数〕三十七頁

〔内題・外題〕外題「泰梁餘哀」

〔発行者・発行年月〕発行者・篠田栗夫 発行所・泊園同窓會 大正十一年（一九二二）四月十日

〔備考〕洋装活版 表紙の外題右上に「大正十一年三月」、左下に「泊園同窓會」とあり 巻頭に「藤澤南岳先生墓」「同上碑陰」「南岳夫子埋髻詩碑」の写真三枚を載せる 本書は大正九年二月、南岳の死去にあたり、臨終および葬儀の様子、各界からの弔辞、同年十一月二十五日開催の追悼公演会の式次第などを詳しく記録する

正氣書院同窓會誌 第十二号

LH2/丙98

〔頁数〕五十五頁

〔内題・外題〕内題「正氣書院同窓會誌 第十二号」外題「正氣書院同窓會誌 第十二号」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行代表者・堀池道貫 発行所・正氣書院同窓會 昭和四年（一九二九）十月二十日

〔備考〕洋装活版 表紙に朱熹の「正氣晦翁」の書の拓本写真を掲げる 巻頭に会澤正心斎「克己復禮」、岡村閑翁「黄衣裳元吉」の書の写真を載せる 正氣書院の創設者は南岳門人の越智官哲

泊園 發行十年特輯號

LH2/丙99

〔頁数〕三十二頁

〔内題・外題〕外題「泊園 發行十年特輯號」

〔発行者・発行年月〕編集兼発行人・的場信太郎 発行所・泊園誌社 昭和十三年（一九三八）一月二十日

〔備考〕『泊園』第三十一号 洋装活版 裏表紙に「泊園誌社」と印刷す 巻頭に

富岡鉄斎の画（南岳と鉄斎の交遊を描く）、東暎の書（五言律詩）、黄坡の書（七言絶句二首）の写真を載せる 本雑誌はLH2/丙83-26に同く

三惜書屋詩稿

一冊 藤澤黄坡撰 藤澤桓夫・石濱純太郎編校 LH2/丙100

〔葉数〕二十葉

〔内題・外題〕内題「三惜書屋詩稿」題簽「黄坡遺稿」扉「三惜書屋二稿」

〔発行者・発行年月〕藤澤桓夫 昭和二十四年（一九四九）十二月十一日

〔蔵書印〕巻末に「泊園文庫」印

〔備考〕黄坡の漢詩集 洋装活版 袋綴じ 題箋は「黄坡遺稿」、扉は「三惜書屋二稿」 冒頭に黄坡の写真を載せる 巻首に「三惜書屋詩稿 藤澤黄坡先生撰 男 桓夫／姻弟石濱純 同輯校」、奥題に「詩稿終 大阪藤澤氏龍仙窟刊印」とあり 赤ペンによる書き入れあり（石濱純太郎筆力）

生員勤惰表（勤惰月旦評）

八冊 藤澤南岳筆

LH2/丙101-1-101-8

〔葉数〕一冊目二十三葉 二冊目五十葉（墨付四十八葉）三冊目三十五葉 四冊目二十六葉（墨付十五葉）五冊目三十葉（墨付二十三葉）六冊目三十三葉 七冊目五十葉（墨付十六葉）八冊目三十五葉（墨付三十四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「生員勤惰表 一」「勤惰月旦評 一（一）（四）（五）（六）（八）」「月旦表 七」

〔備考〕大和綴じ 横本 一冊目から七冊目までは精写本、八冊目は草稿 三冊目から七冊目まで「月旦評」（版心上）「泊園書院」（版心下）の青刷野紙を用う 版心上部に年（干支）と月を記す 一冊目・二冊目・八冊目の裏表紙に「泊園社」と墨書す 墨筆・朱筆による書き入れあり 舛なし

塾生の毎月の成績表 罫線を引いて上下四段に分ち、等級と学生の姓名を記す 等級は二等上から九等下まで分かれ、三等以上を高等とする 一冊目 表紙外題に「生員勤惰表 一」と墨書し、表紙右に「明治十一年」と朱書す 明治十一年五月から明治十一年十二月まで 見返

泊園書院學制 一冊

LH2/丙103

〔葉數〕七葉

〔内題・外題〕内題「泊園書院學制」書き付け外題「泊園書院學制」

〔備考〕大和綴じ 和文 表紙右下に「吹田町 巨 亀太郎」の書き付けあり 筆者は巨亀太郎か 小引に続き第一款から第七款に至る書院の規定を記す 帙なし 本資料は吾妻重二編著『泊園文庫印譜集』（泊園書院資料集成二、関西大学東西学術研究所研究資料集刊二十九―二、関西大学出版部、二〇一三年三月）に全文を翻刻掲載する

通學生勤情表 五冊

LH2/丙104-2-104-5-104-7

〔葉數〕一冊目六葉 二冊目六葉（墨付五葉） 三冊目五葉 四冊目四葉 五冊目七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「通學生勤情表」（一冊目、二冊目、五冊目）「通學生欠勤一覧」（三冊目）「通學生一覧」（四冊目）

〔備考〕大和綴じ 青刷罫紙を用う 明治三十九年（一九〇六）の出席簿 住所・氏名欄のあとに日付欄があり、出席であれば「勤」の朱印を押す 各人の受講科目名を欄外に墨書す 帙なし

一冊目 表紙に「明治三十九年二月 通學生勤情表 計三拾壹名 泊園書院」と書き付け

二冊目 表紙に「明治卅九年三月 通學生勤情表 泊園書院」と書き付け

三冊目 表紙に「明治卅九年四月 通學生欠勤一覧 泊園書院」と書き付け 表紙に「梅見」印

四冊目 表紙に「明治卅九年五月 通學生一覧 泊園書院」と書き付け 末尾に「メ二十四人」と墨書す

五冊目 表紙に「第七号 卅九年七月中 通學生勤情表 泊園書院」と書き付け 末尾に「メ三拾九人」と朱書す 表紙に「梅見」印

しに「勤踰于衆者加○點 不勤過十五日者加、点 不勤過一月者加●點 加黑圈至三者黜其位 不勤至六月者除其名」と記す 挟み物・罫線を引いた浄書用の下敷き

二冊目 表紙外題に「勤惰月旦評 二」と墨書し、表紙右に「明治三十三年十五年」と朱書するが、実際には明治十二年一月から明治十五年十二月まで

三冊目 表紙外題に「勤惰月旦評 三」と墨書し、表紙右に「明治三十七年十九年」と朱書す 明治十七年一月から明治十九年十二月まで

四冊目 表紙外題に「勤惰月旦評 四」と墨書し、表紙右に「二十年 十四年マテ 大畧」と朱書す 明治二十年一月から明治二十四年十二月まで ただし途中欠落の月あり

五冊目 表紙外題に「勤惰月旦評 五」と墨書し、表紙右に「明治二十五年」と朱書す 明治二十五年一月から明治二十六年十二月まで

六冊目 表紙外題に「勤惰月旦評 六」と墨書す 明治二十七年一月から明治三十年六月まで ただし途中欠落の月あり

七冊目 表紙外題に「月旦評」と墨書す 明治三十年十月から明治三十三年十月まで 最後の月旦評一葉は何月か記載なし 挟み物・罫線を引いた浄書用の下敷き

八冊目 表紙外題に「勤惰月旦評」と墨書す 月旦評の草稿 時期は不明だが、明治初期のものか 挟み物・退塾者五名の名を記す

泊園書院入學願書関係資料 十二枚

LH2/丙102

〔内題・外題〕書き付け外題「泊園書院入學願書関係資料」

〔備考〕泊園書院への入學願一枚（高山憲之助、大正五年三月）、二十七×三十八・三センチ 「本庄主」の住所・氏名を記したメモ一枚（日付：二月二十四日 入學用のメモか）、入學時の「保證書」十枚（大正三年から六年）、二十七×十九・六センチ 紙袋に入る

第拾七回泊園同窓會通知簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙105-17

〔葉數〕二十葉

〔内題・外題〕内題「明治乙巳第十七回泊園同窓會通知人名簿」書き付け外題

「第拾七回泊園同窓會通知簿」

〔藏書印〕表紙右下に「泊園□印」印 巻頭下に「大阪市東區淡路町泊園書院」の角印

〔備考〕大和綴じ 明治二十八年十月十七日開催の第十七回泊園同窓會名簿 青刷罫紙を用い、上から「会費」「国名」「市區町村番地」「氏名」に分けて記入 墨筆・朱筆・赤鉛筆などによる書き入れ多し 帙なし

第拾八回泊園同窓會通知簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙105-18

〔葉數〕十八葉

〔内題・外題〕内題「第拾八回泊園同窓會通告人名簿 地方」書き付け外題「第

壱号 地方之部 第拾八回泊園同窓會通知簿」

〔備考〕大和綴じ 明治二十九年十月十七日開催の第十八回泊園同窓會名簿（地方） 青刷罫紙を用い、上から「会費」「常費」「国名市郡町村」「氏名」に分けて記入 墨筆・朱筆による書き入れ多し 朱筆・墨筆による欄外書き入れあり 帙なし

乙巳修學旅行詩 寧都訪古録 一冊

LH2/丙106

〔葉數〕九葉

〔内題・外題〕書き付け外題「乙巳修學旅行詩 寧都訪古録」

〔備考〕大和綴じ 油印 明治三十八年十月の漢詩文による旅行記 冒頭に「修學旅行詩記」を載せる 巻末に「雅多拜稿」とあり

「修學旅行詩記」に「今年乙巳歳十月、我校例課修學旅行」といい、初年・二年・三年の学生二百余人は崇禪寺に詣で、四年・五年の学生百余人は生駒山を越え奈良法隆寺に向かったといい、旅行記中に東軍・西軍の二

隊に分かれて教練を行なうなどの記述があることから、黄坡が前年の明治三十七年まで勤務していた大阪陸軍幼年学校の学生によるものであろう

泊園文庫展観目録 一枚

LH2/丙107

〔内題・外題〕内題「泊園文庫展観目録」外題「泊園文庫展観目録 昭和十六年

十月七日展観 関西大学」

〔備考〕油印 昭和十六年十月七日、関西大学文学部東洋文学科創設記念講演会に際して開かれた「泊園文庫展観」の目録 ペン書きによる訂正あり 紙袋に入る

登門録原稿 五冊

LH2/丙108-1~108-5

〔葉數〕一冊目四十七葉 二冊目二十七葉 三冊目十八葉 四冊目六葉 五冊目

二十八葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「登門録 原稿 一（一）（三）（四）（五終）」表紙右上隅に「ア（イ）（ウ）（エ）（オ）」と墨書す

〔備考〕大和綴じ 藍刷罫紙を用う 第一冊にはア段（アカサタナハマヤラワ）、第二冊にはイ段（イキシチニヒミ）、第三冊にはウ段（ウクスツヌフムユ）、第四冊にはエ段（エセテネヘメ）、第五冊にはオ段（オコソトノホモヨロ）に始まる名を載せ、名の下に住所を記す 名の上に「出」「終」の小印多数あり 墨筆・朱筆による書き入れ多し 『第拾五六回泊園同窓會誌』（LH2/丙96-15/16） 附載「登門録」の原稿か 帙なし

泊園書生姓名名録 一冊

LH2/丙109

〔葉數〕五十九葉

〔内題・外題〕内題なし 書き題簽「泊園書生姓名名録」

〔備考〕四つ目綴じ 奥付に「泊園塾／知事／全部二百八十八人」とあり、裏表紙に「知事／司史／共□」とある。朱筆・墨筆による書き入れあり 天保

十四年（癸卯、一八四七）から安政六年（己未）に至る東畧時代十六年の塾生名簿 吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』（泊園書院資料集成一、東西学術研究所資料集刊二十九―一、二〇一〇年）に全文の翻刻を載せる 帙なし

講筵出席簿 一冊

LH2/丙110

〔葉数〕二百一葉（墨付百九葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大正六年一月 講筵出席簿」

〔備考〕洋装 青刷野紙を用う 裏表紙に「大阪東區東平野町 泊園書院」と墨書す 大正六年（一九一七）および九年（一九二〇）～十二年（一九二三）の出席簿 上欄に日付、下欄に氏名を記し、日付欄に出欠の印をつける

應門簿 四冊

LH2/丙111-1~111-4

〔葉数〕一冊目八十九葉 二冊目百九葉（墨付九十七葉） 三冊目七十七葉（墨付六十葉） 四冊目四十五葉

〔内題・外題〕一冊目外題「壬辰八月一日改 應門簿 泊園書院」、扉の文字は外題に同じ 二冊目外題「乙未三月一日改 應門簿 泊園書院」 三冊目外題「明治」亥一月 應門簿 泊園書院 四冊目外題「應門簿」

〔備考〕一冊目・二冊目は線装（四つ目綴じ） 三冊目・四冊目は洋装 一冊目は朱刷野紙、二冊目～四冊目は青刷野紙を用う 上から「月日」「出入」「入退及帰省帰院」「應門者姓名」などに分け、毎日の書院の出入について詳細に記録する「應門者姓名」は出入の管理・記録者のことであろう 帙なし
一冊目 明治二十五年（一八九二）八月一日から同二十八年（一八九五）三月一日まで 奥付に「明治廿七年四月三十日」とあり
二冊目 明治同二十八年（一八九五）三月一日から同三十二年（一八九九）一月六日まで
三冊目 明治三十二年（一八九九）一月一日から同三十四年（一九〇一）七

月十六日まで

四冊目 明治三十四年（一九〇一）八月十六日から 明治三十七年（一九〇四）十二月三十一日まで 末尾に「明治三十七年終」と墨書す

裏表紙に「泊園書院」と墨書す

生徒手帳 一冊

LH2/丙112

〔頁数〕百三十六頁+二十頁

〔内題・外題〕内題なし 外題「生徒手帳 明治四十年四月入学」

〔蔵書印〕表紙および巻末に「藤澤」の印あり

〔備考〕洋装活版 岸和田中学校校歌を載せることから、同校作成の生徒手帳と思われる

第貳拾貳回泊園同窓會常費寄贈録 一冊

LH2/丙113

〔葉数〕十四葉（墨付七葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「明治四拾参年十月 第貳拾貳回泊園同窓會常費寄贈録 附特別寄贈金」

〔蔵書印〕表紙の書き付け外題の上に「泊園□印」印

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 明治四十三年十月十七日開催の第二十二回泊園同窓会における会費納付者名簿 上から「金額」「住所」「氏名」に分けて記入 末尾に「特別寄贈者氏名」を載せる 朱筆・墨筆による書き入れ多し 帙なし

贈叙位祝賀會 出席門生氏名錄 出席會員氏名錄 一冊

LH2/丙114

〔葉数〕二十一葉（墨付十五葉）

〔内題・外題〕書き付け外題「贈叙位祝賀會 出席門生氏名錄 出席會員氏名錄」 第十葉表に「出席門生氏名錄」

〔備考〕大和綴じ 藍刷野紙などを用う 大正四年十二月十六日における東畧と

南岳の贈叙位祝賀会の出席者名簿 氏名のみ載せる 墨筆・赤鉛筆による
書き入れ多し 帙なし

書院雜事録 一冊 藤澤南岳録 藤澤南岳筆

LH2/丙115

〔葉数〕二十九葉（墨付四葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「書院雜事録」

〔藏書印〕表紙右下に「泊園文庫」印

〔備考〕大和綴じ 藍刷野紙を用う「冬至釋奠儀註」「試業則」「春期釋奠式」の
項目あり 帙なし

出席來賓芳名録 一冊 藤澤黄鵠筆カ

LH2/丙116

〔葉数〕十四葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「出席來賓芳名録」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 氏名および肩書もしくは住所を記す 墨筆・
赤ペンによる書き入れ多し 帙なし

祝賀會發起人名簿 一冊

LH2/丙117

〔葉数〕五葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「祝賀會發起人名簿」

〔備考〕大和綴じ 表紙右下に「藤澤先生贈叙位祝賀會之印」印 大正四年十二
月十六日における東嶽と南岳の贈叙位祝賀会の発起人名簿 氏名のみ記す
欄外書き入れあり 帙なし

大阪府郡部同窓會名簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙118

〔葉数〕七葉

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「第二号 大阪府郡部」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 氏名と住所を記す LH2/丙105-18に続ぐ

ものか 朱筆・墨筆による書き入れ多し 帙なし

泊園同窓會列席申込者名簿 一冊

LH2/丙119

〔葉数〕二十四葉（墨付二十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園同窓會列席申込者名簿」など

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「国名」「市郡町村」「人名」
に分けるなどして記す 次の四点を合冊す「梅見」印多数あり 墨筆・朱
筆・赤ペン・赤鉛筆による書き入れ多し 帙なし

一 表紙外題「第拾六回（明治卅七年十月十七日）泊園同窓會列席申込者
名簿 泊園書院同窓會」

二 表紙外題「明治卅七年十月初吉 第拾六回泊園同窓會常費寄贈者名簿
泊園同窓會用」

三 表紙外題「明治卅六年五月中旬 第拾五回泊園同窓懇親會列席簿 泊
園同窓會幹事」左下に「泊園同窓會幹事印」印

四 表紙外題「明治卅六年五月初吉 第拾五回泊園同窓會常費領収簿 主
任泊園書院 梅見春吉」中央と左下にそれぞれ「泊園同窓會幹事印」
印、中央に「泊園書院」の大印

第十七回同窓會出席簿 一冊

LH2/丙120-17

〔葉数〕十二葉（墨付五葉）

〔内題・外題〕内題「明治乙巳第十七回泊園同窓懇親會出席氏名簿」書き付け外
題「泊園同窓會用 明治乙巳同窓會出席者簿」

〔藏書印〕表紙右下に「泊園□印」印

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「常費」「氏名」に分けて記
す 第六葉は「泊園文庫基金債券利子及追納收入表」、第七葉は「同 支出
部」「梅見」印多数あり 墨筆による書き入れ多し 帙なし

第拾八回泊園同窓懇親會出席簿 一冊

LH2/丙120-18

〔葉数〕十葉（墨付六葉）

〔内題・外題〕内題「第十八回泊園同窓會出席申込名」書き付け外題「第拾八回

泊園同窓懇親會出席簿」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「氏名」に分けて記す「梅

見」印多数あり 墨筆・朱筆による書き入れ多し 帙なし

第拾九回泊園同窓會出席簿 一冊

LH2/丙120-19

〔葉数〕九葉

〔内題・外題〕内題「第拾九回泊園同窓懇親會出席者」書き付け外題「第拾九回

泊園同窓會出席簿」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 墨筆による書き入れあり 帙なし

第貳拾貳回泊園同窓會出席員名簿 一冊

LH2/丙120-22

〔葉数〕十一葉（墨付三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「明治四十參年十月仲七於天王寺畔八百

松樓上開催 第貳拾貳回泊園同窓會出席員名簿」

〔蔵書印〕表紙左下に「泊園□印」印

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 上から「會費」「住所」「氏名」に分けて記

す 墨筆による書き入れあり 帙なし

第拾九回泊園同窓會員名簿 一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙121

〔葉数〕二十六葉（墨付二十四葉）

〔内題・外題〕内題「泊園同窓會員名簿 丁未ノ部」書き付け外題「丁未 菊秋

第拾九回泊園同窓會員名簿 泊園同窓會」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 氏名のいろは順に記す 表紙左下に「大阪

市東區東平野町五丁目壹八九★泊園書院」印 朱筆・墨筆による書き入れ

多し 帙なし

登門録 一冊

LH2/丙122

〔頁数〕四十四頁

〔内題・外題〕内題なし 外題「登門録」

〔備考〕洋装活版『第拾五六回泊園同窓會誌』(LH2/丙69-15/16)に附載の「登門録」を単行出版したもの 明治六年から明治三十七年に至るまでの千六百五十六名の泊園書院門人名簿 この「登門録」は吾妻重二編著『泊園書院歴史資料集』(泊園書院資料集成一、東西学術研究所資料集刊二十九一、二〇一〇年)に影印を載せる

登門録 一冊 藤澤黄坡筆

LH2/丙123

〔葉数〕八葉

〔内題・外題〕内題なし 外題「登門録」

〔備考〕大和綴じ 青刷野紙を用う 裏表紙に「泊園書院分院」と墨書す 黄坡が主宰した泊園書院分院(大阪市内南区竹屋町九番地)の門人名簿 明治四十四年(一九一一)六月から大正四年(一九一五)二月まで 墨筆による書き入れ多し 帙なし

巻末に挟み物あり「私立泊園書院分院」と印刷された出席表八枚、「公私立 諸學校 大阪市内南区役所」の届出用紙一枚、「藤澤黄坡先生」宛封筒一枚、「井崎貞一郎」「近藤侃太郎」の名刺それぞれ一枚、「細見高等写真館」の受取証一枚、「辻政太郎」紙片一枚

泊園同窓會名簿 一冊 藤澤黄鵠筆カ

LH2/丙124

〔葉数〕四十七葉（墨付二十三葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「泊園同窓會名簿」

〔備考〕四つ目綴じ 青刷野紙を用う 第二十五葉以降、第一回から第六回まで

同窓会の支出を記録する 朱筆・墨筆による書き入れあり 帙なし

餘計簿

一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙125

〔葉数〕九十九葉（墨付九十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「餘計簿」

〔備考〕洋装 藍刷野紙を用う 南岳の揮毫・筆耕の詳細な記録 大正二年（一九一三）五月十五日から大正六年（一九一七）十二月まで 扉に「季布一語 計慶音通」と墨書す 朱筆・墨筆による書き入れあり 帙なし

貌執録

一冊 藤澤南岳筆

LH2/丙126

〔葉数〕百一葉（墨付七十六葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「貌執録」

〔備考〕洋装 朱刷野紙を用う 南岳の知人の名簿 裏表紙の中央下に「泊園主人」と墨書す 墨筆・朱筆による書き入れあり 帙なし

季語録

一冊 藤澤南岳・藤澤黄鵠筆カ

LH2/丙127

〔葉数〕三十四葉（墨付十二葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「季語録」

〔備考〕大和綴じ 藍刷野紙を用う 扁額の揮毫の記録、書院の書籍・収藏品目録など 朱筆・墨筆による書き入れあり 帙なし

泊園書院入学願書

一枚 清水久兵衛筆

LH2/丙128

〔内題・外題〕内題「入学願書」 書き付け外題「泊園書院入学願書」

〔備考〕二十四・二×二十九・五センチ 大正四年（一九一五）九月三日、清水

久兵衛の子、清水明の泊園書院入学願書 左下に「清水」印

泊園日誌

一冊一帙 梅見春吉ら筆

LH2/丙129

〔葉数〕百九十八葉（墨付百八十五葉）

〔内題・外題〕内題なし 書き付け外題「大正六年 泊園日録」

〔備考〕洋装 裏表紙に「幹吏室 記事」と墨書す 大正六年一月一日から大正

十三年二月十二までの泊園書院の日誌 題箋「泊園日誌 大正六年」の帙に収む

関西大学泊園文庫
自筆稿本目録稿（丙部）

発行日 2013年 3 月30日

編 集 関西大学アジア文化研究センター
吾 妻 重 二

発 行 © 関西大学アジア文化研究センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

印 刷 株式会社 遊文舎

